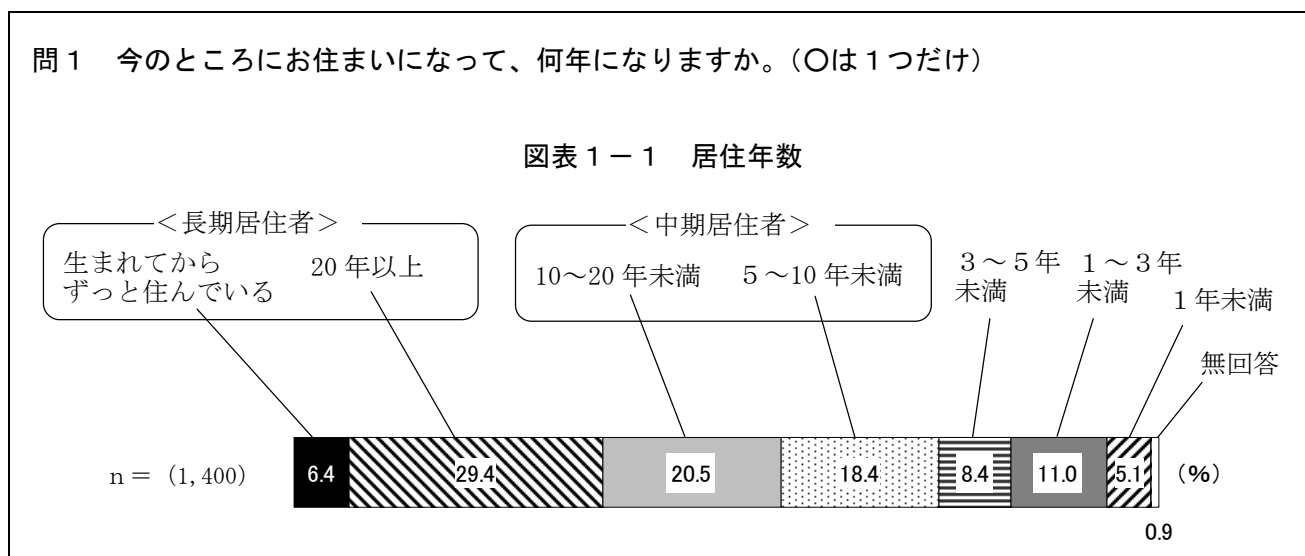


② 第2回アンケートの結果

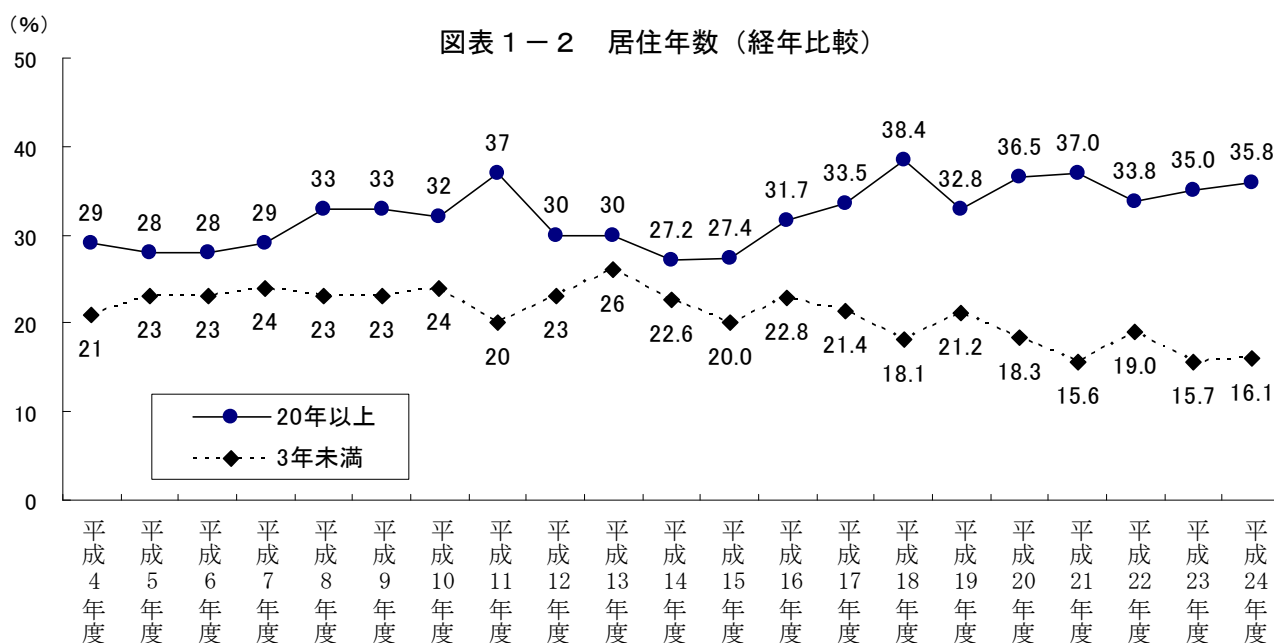
1 定住状況について

1-1 居住年数

◎20年以上の<長期居住者>が35.8%

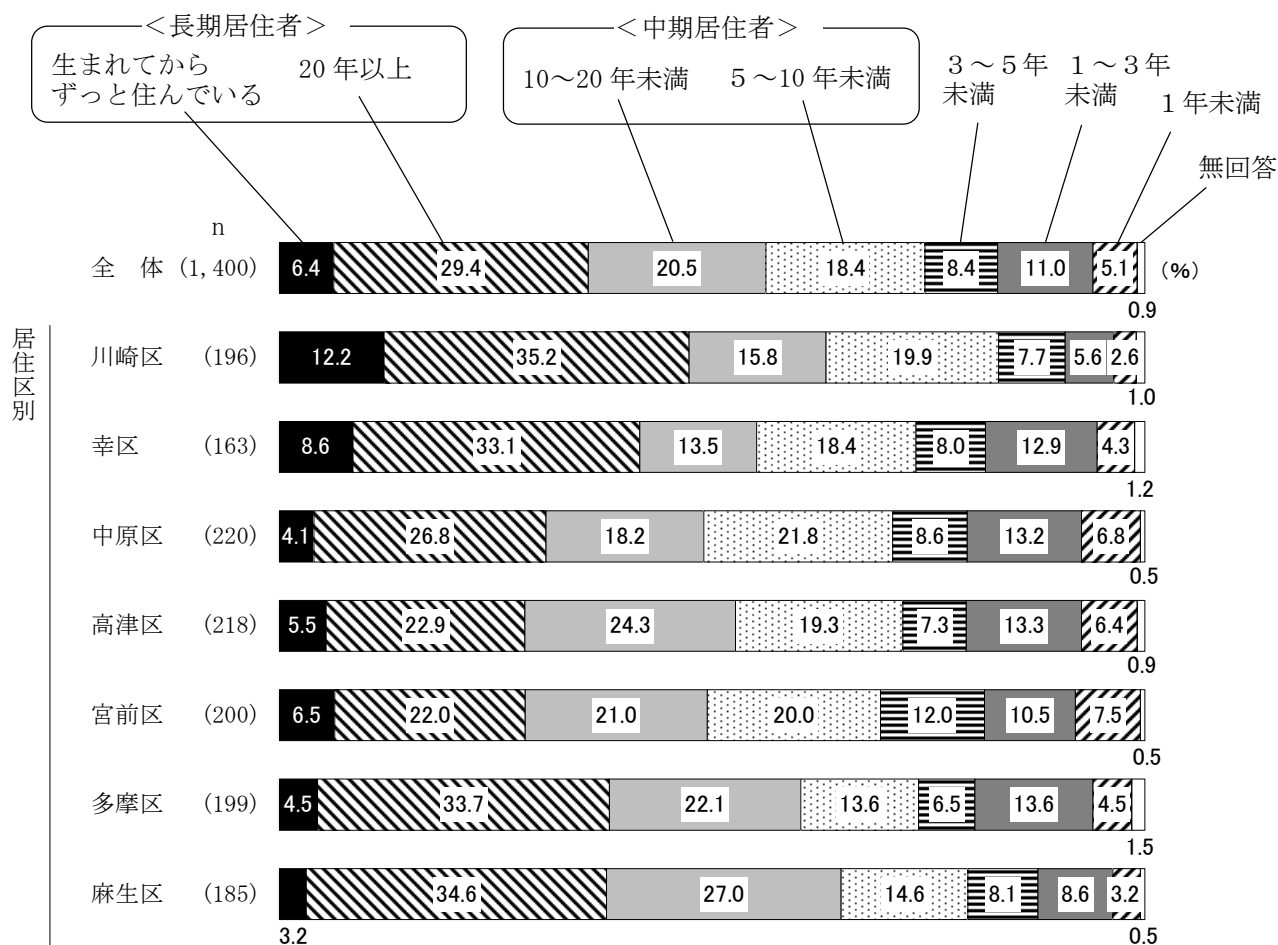


居住年数は、「20年以上」(29.4%)が最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」(6.4%)をあわせた<長期居住者>は35.8%となっている。「5~10年未満」(18.4%)と「10~20年未満」(20.5%)をあわせた<中期居住者>は38.9%となっている。(図表1-1)



過去の推移では、10年前(平成14年度)と比較すると、<長期居住者>は、27.2%から35.8%へ8.6ポイント増加している。「3年未満」は、22.6%から16.1%へと6.5ポイント減少している。「20年以上」と「3年未満」の割合の差は、10年前の4.6ポイントに対し、今年度は19.7ポイントと増加している。(図表1-2)

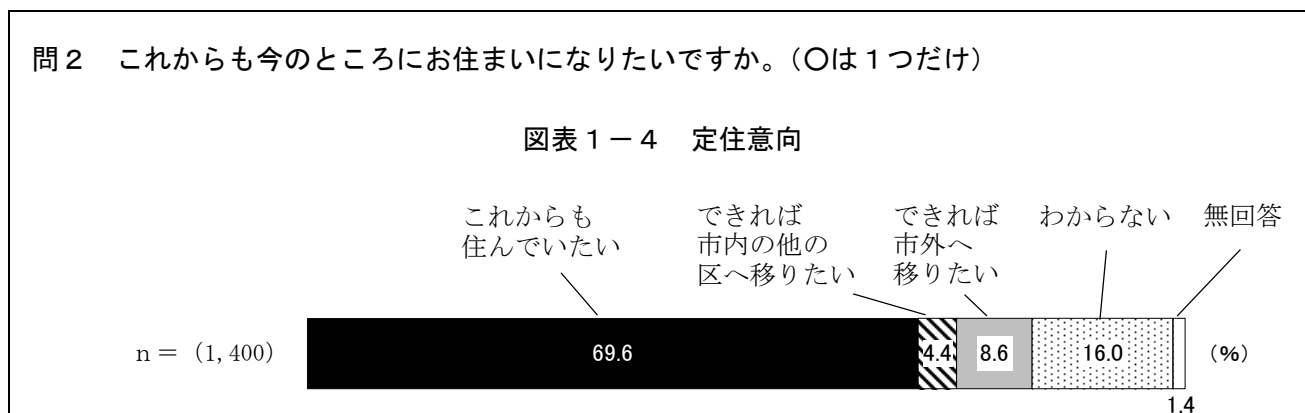
図表 1-3 居住年数 (居住区別)



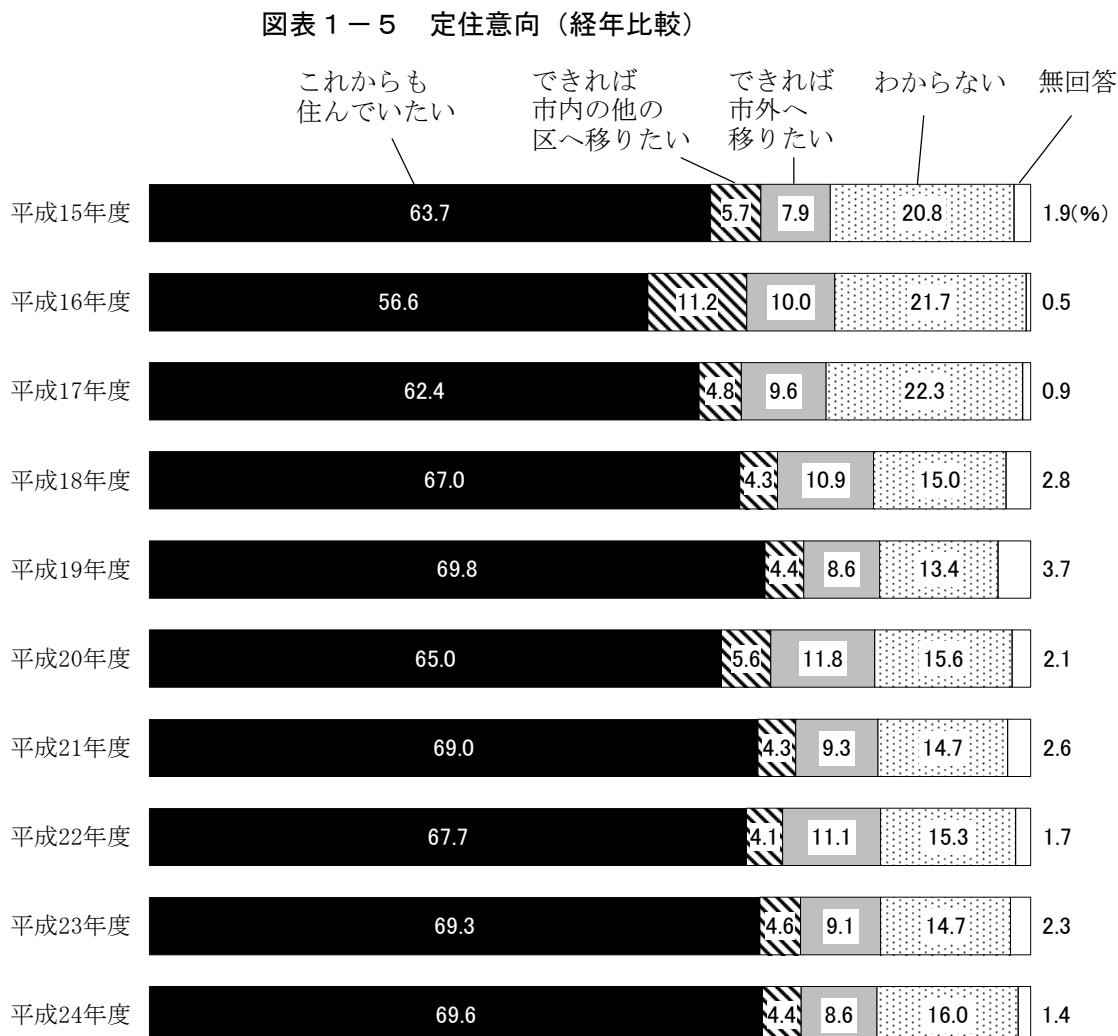
居住区別では、＜長期居住者＞は、川崎区が 47.4%で最も多くなっている。次いで、幸区の 41.7%、多摩区の 38.2%と続いている。「3年未満」は、中原区が 20.0%で最も多くなっている。次いで、高津区の 19.7%、多摩区の 18.1%と続いている。(図表 1-3)

1-2 定住意向

◎「これからも住んでいたい」が69.6%

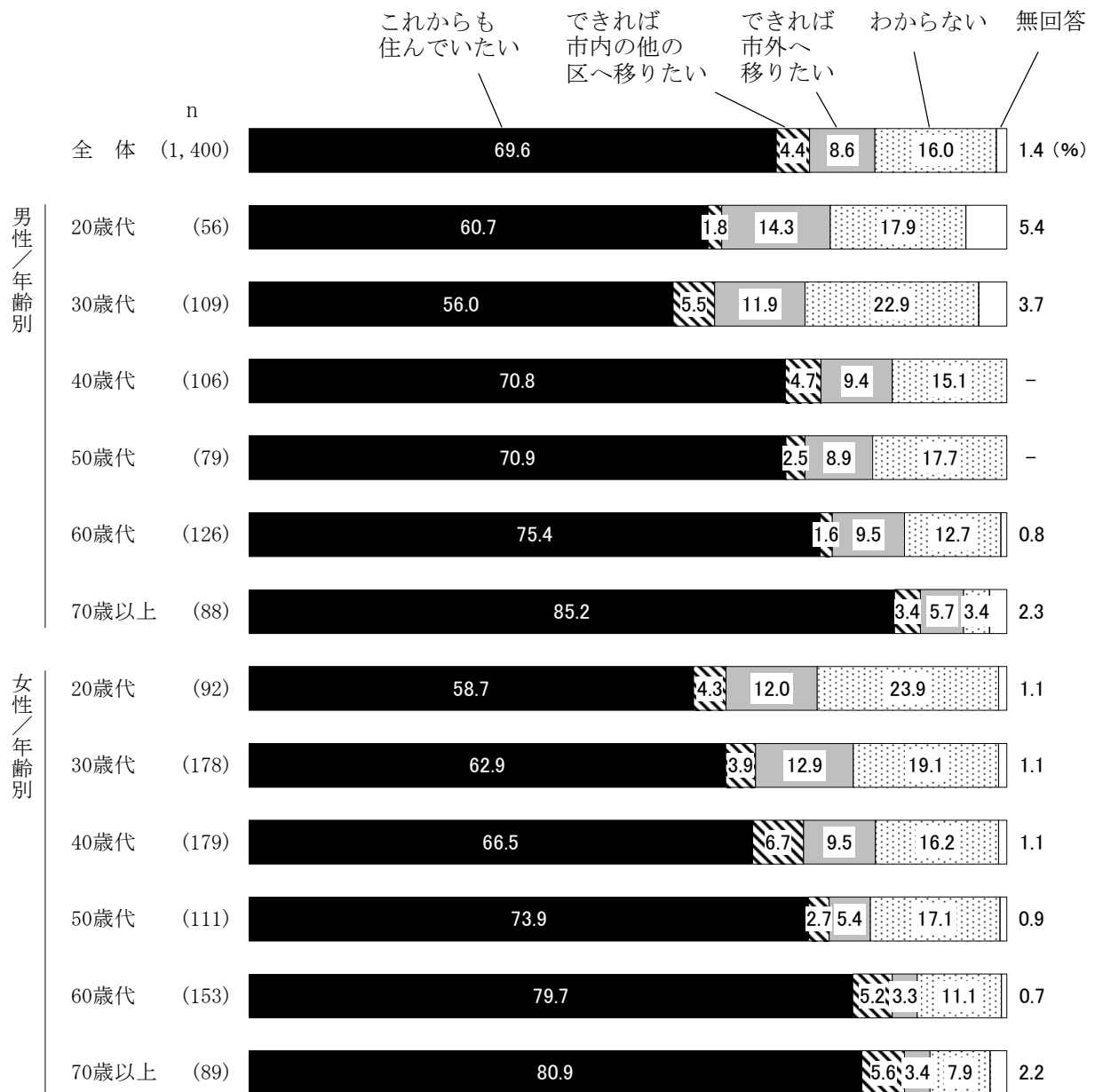


定住意向は、「これからも住んでいたい」は69.6%、「できれば市外へ移りたい」は8.6%となっている。(図表1-4)



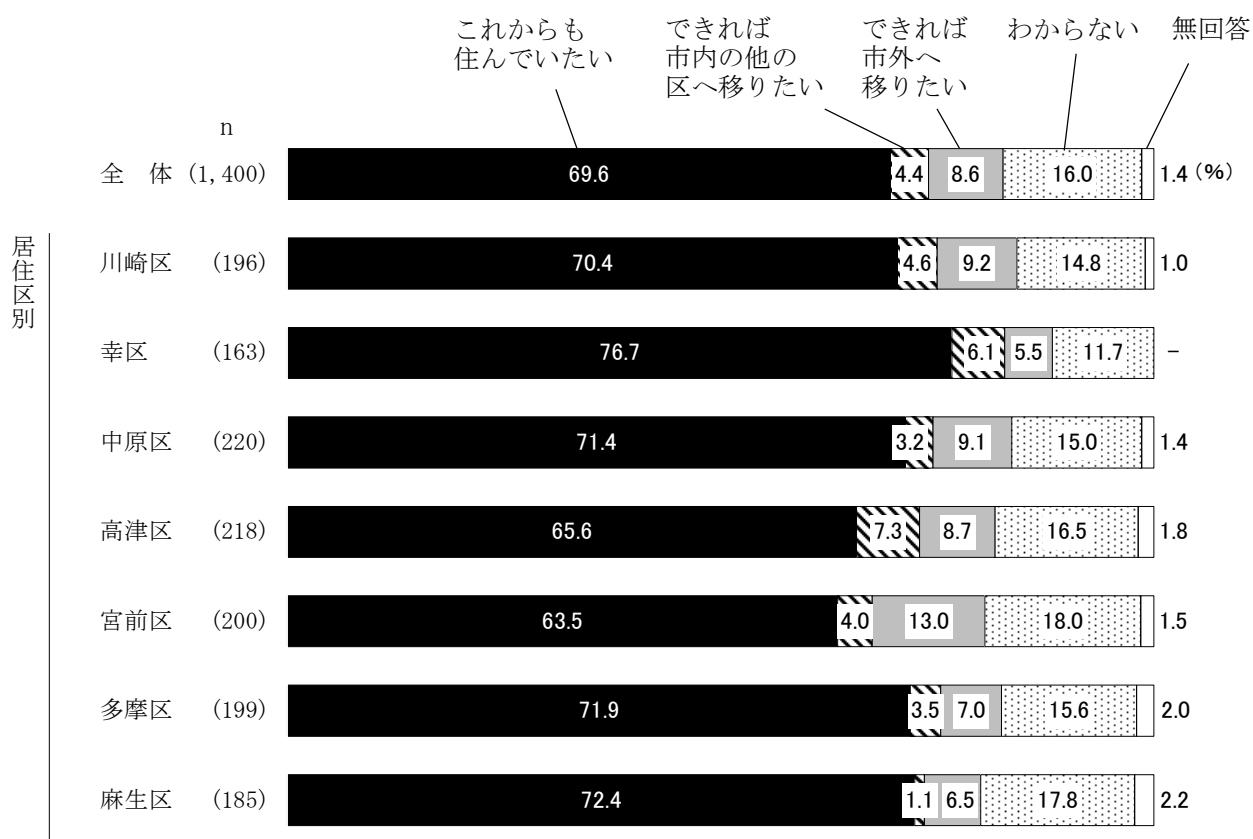
「これからも住んでいたい」は、平成17年度以降は6割台で推移しており、「できれば市内の他の区へ移りたい」をあわせた平成24年度の市内在住意向は74.0%となっている。(図表1-5)

図表1-6 定住意向(性/年齢別)



性/年齢別では、「これからも住んでいたい」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。男女ともに70歳以上が8割台と多くなっている。(図表1-6)

図表1-7 定住意向(居住区別)



居住区別では、「これからも住んでいたい」は、幸区(76.7%)が最も多くなっている。次いで、麻生区(72.4%)、多摩区(71.9%)の順となっている。(図表1-7)

1-3 転居意向の理由

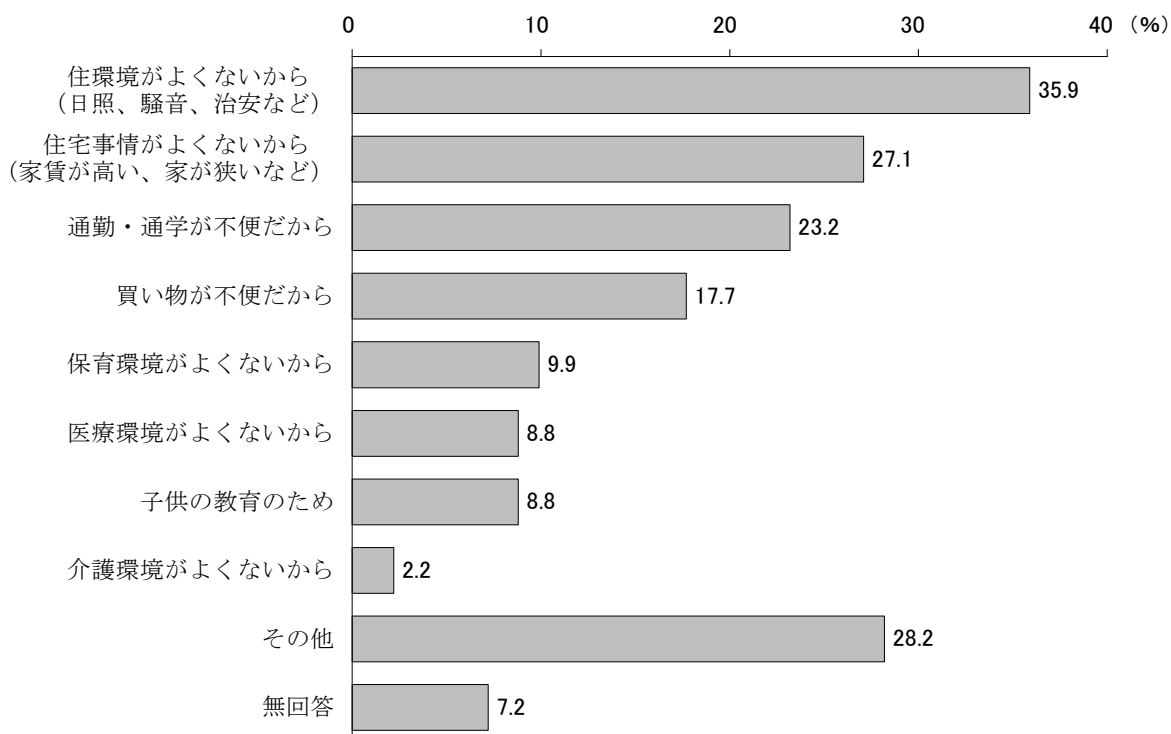
◎「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が35.9%

(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問2-1 今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

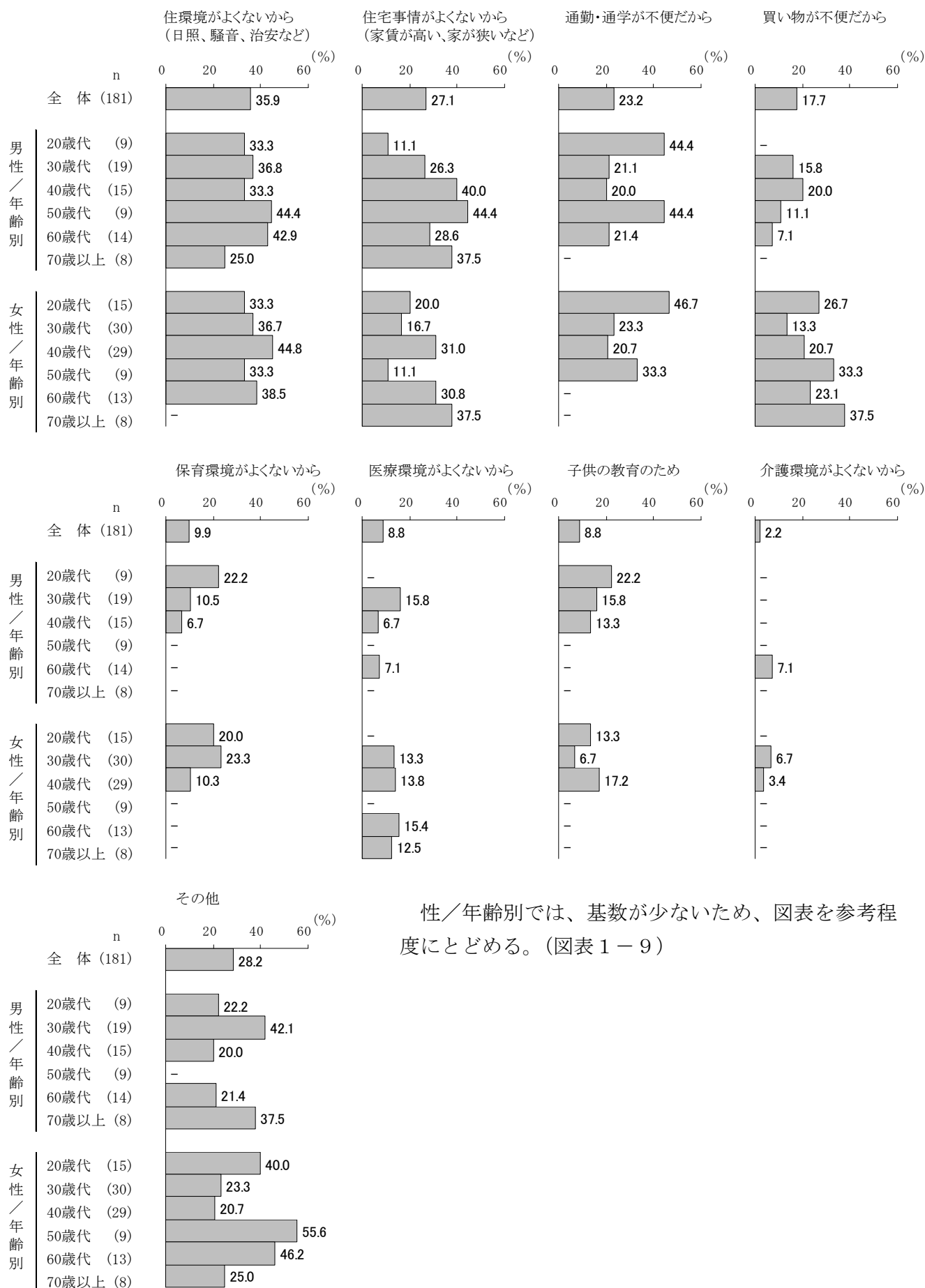
図表1-8 転居意向の理由

(複数回答) n = (181)



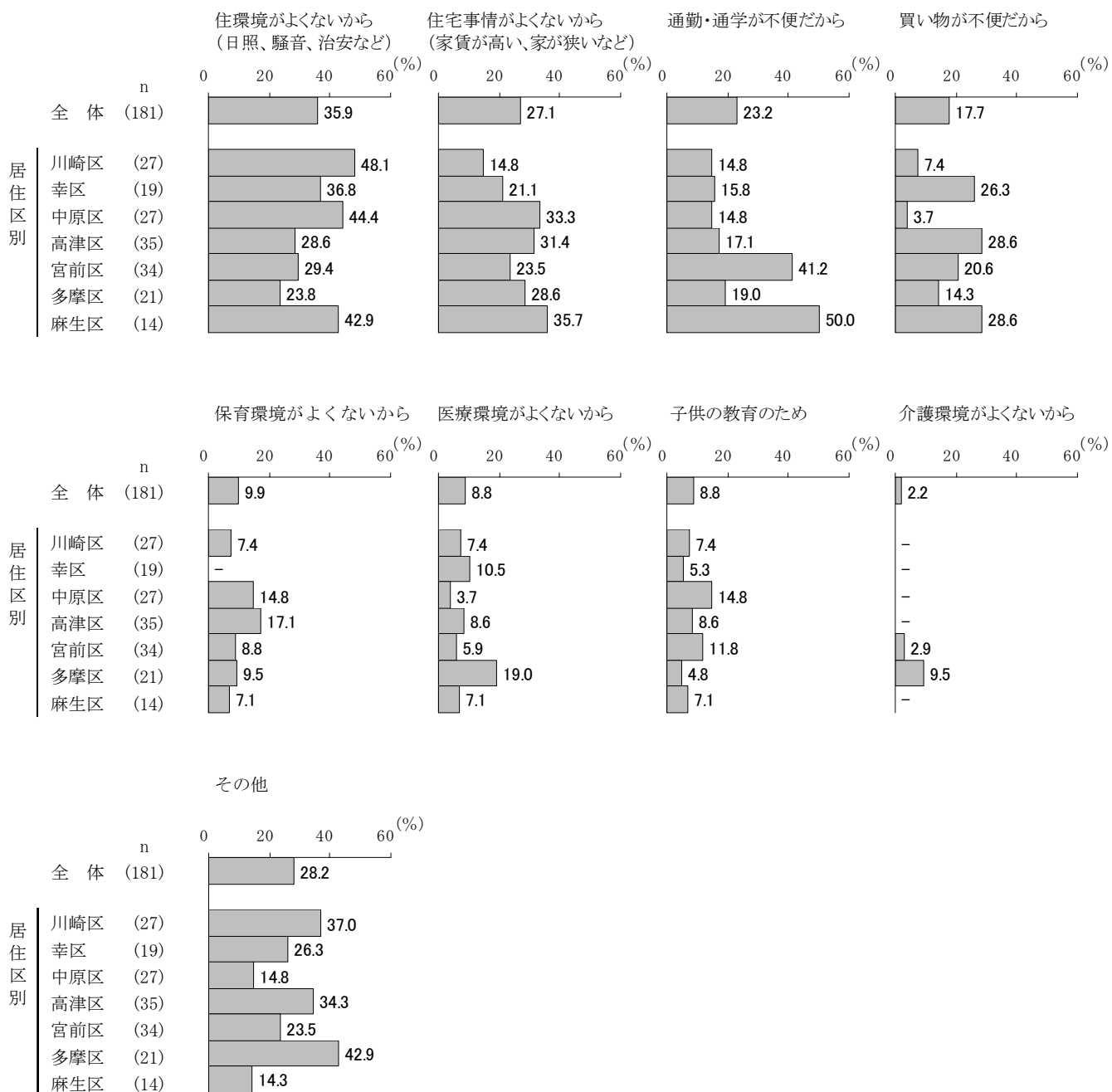
転居意向の理由は、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」(35.9%)が最も多くなっている。次いで、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」(27.1%)、「通勤・通学が不便だから」(23.2%)、「買い物が不便だから」(17.7%)の順となっている。(図表1-8)

図表1-9 転居意向の理由(性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-9)

図表1-10 転居意向の理由(居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-10)

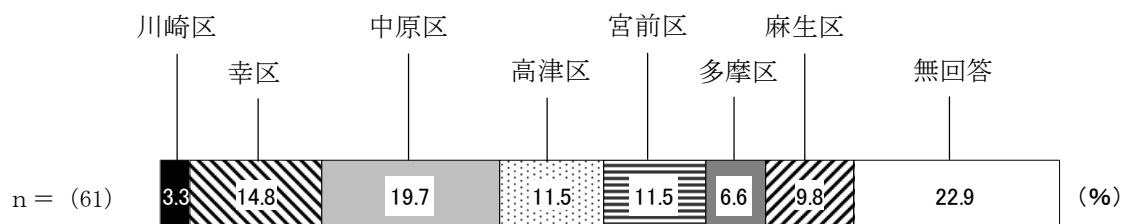
1-4 転居先の希望

◎市内では「中原区」19.7%、市外では「東京23区」40.8%が多い

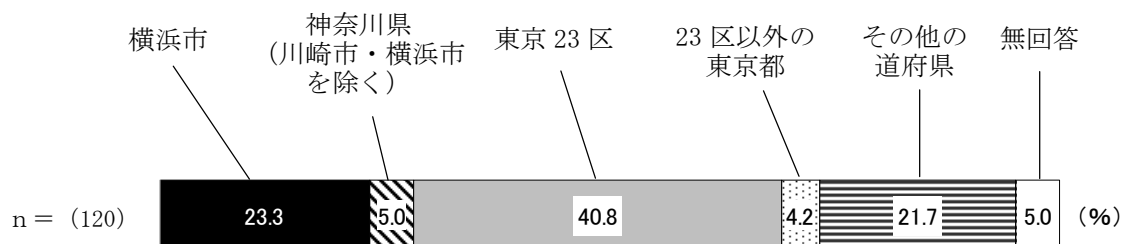
(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問2-2 どこに住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図表1-11 転居先の希望(市内)



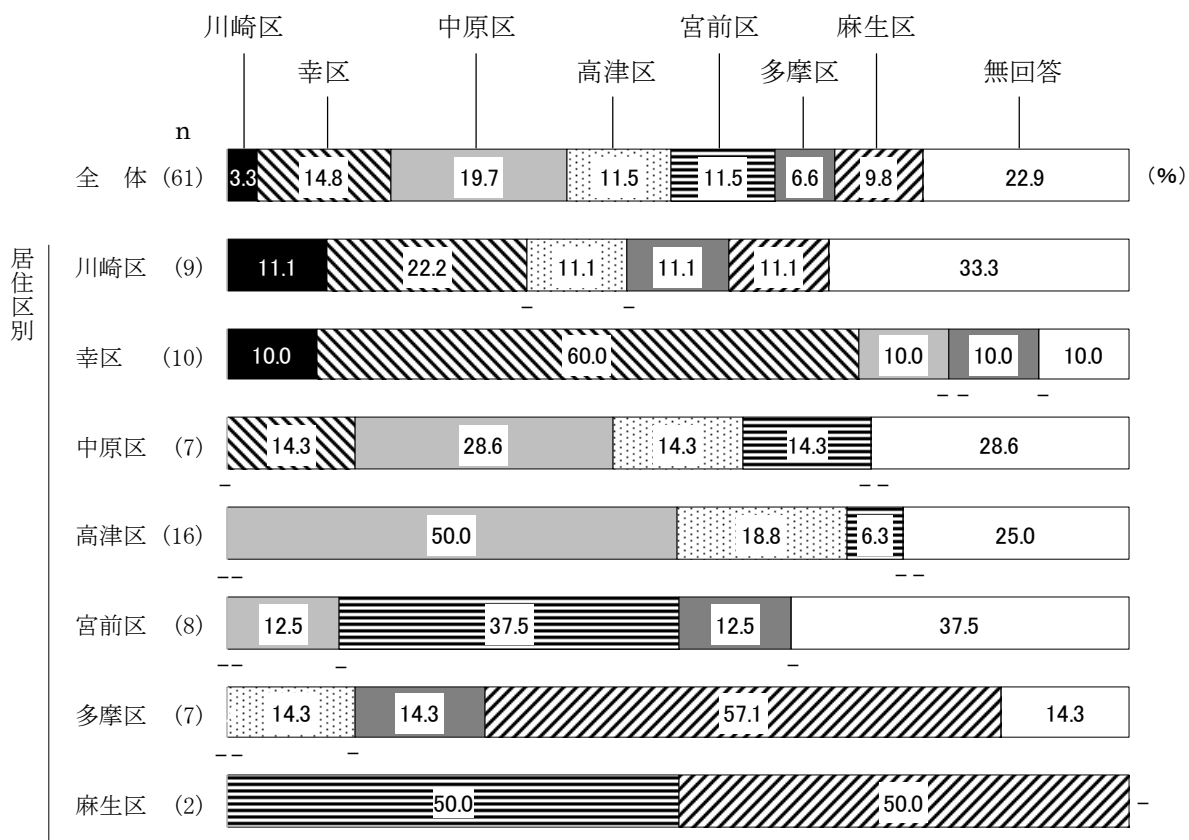
図表1-12 転居先の希望(市外)



転居先の希望(市内)は、「中原区」(19.7%)が最も多くなっている。次いで、幸区(14.8%)、高津区・宮前区(それぞれ11.5%)の順となっている。(図表1-11)

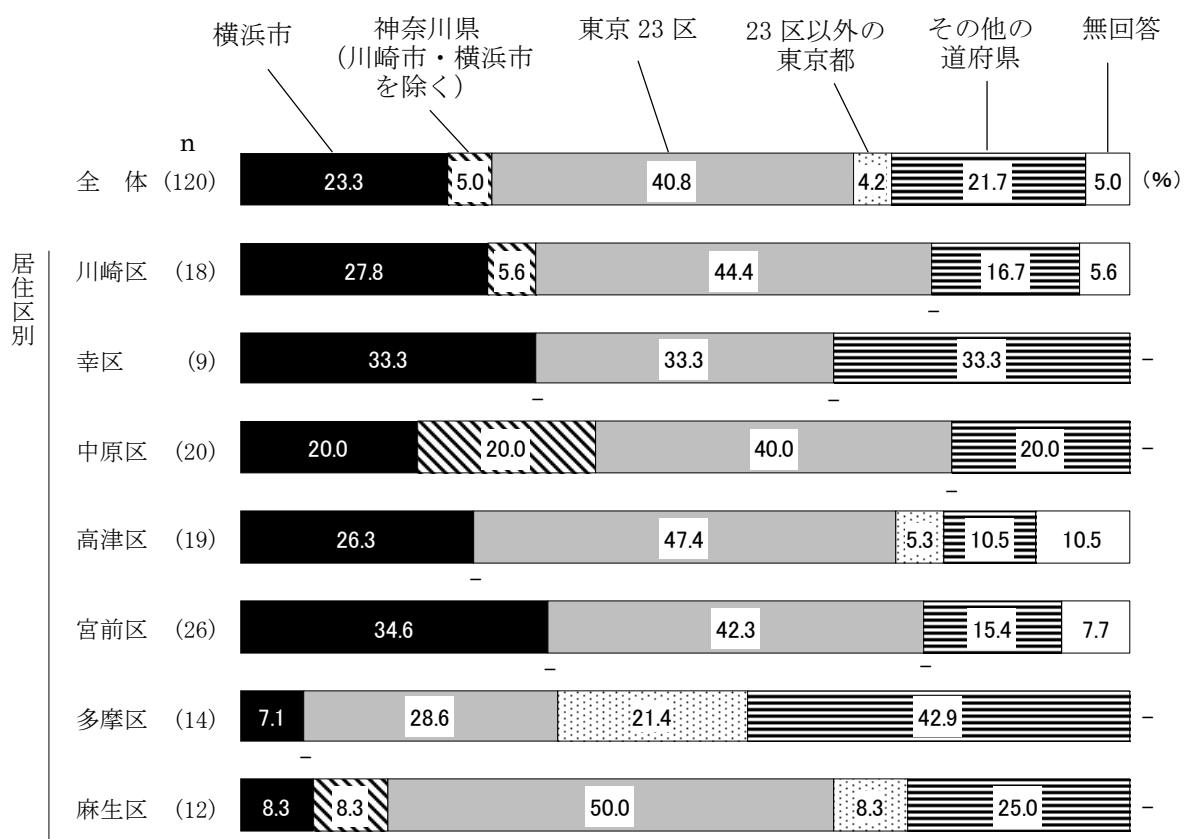
転居先の希望(市外)は、「東京23区」(40.8%)が最も多くなっている。次いで、「横浜市」(23.3%)、「その他の道府県」(21.7%)の順となっている。(図表1-12)

図表 1-13 転居先の希望 (市内、居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1-13)

図表 1-14 転居先の希望 (市外、居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1-14)

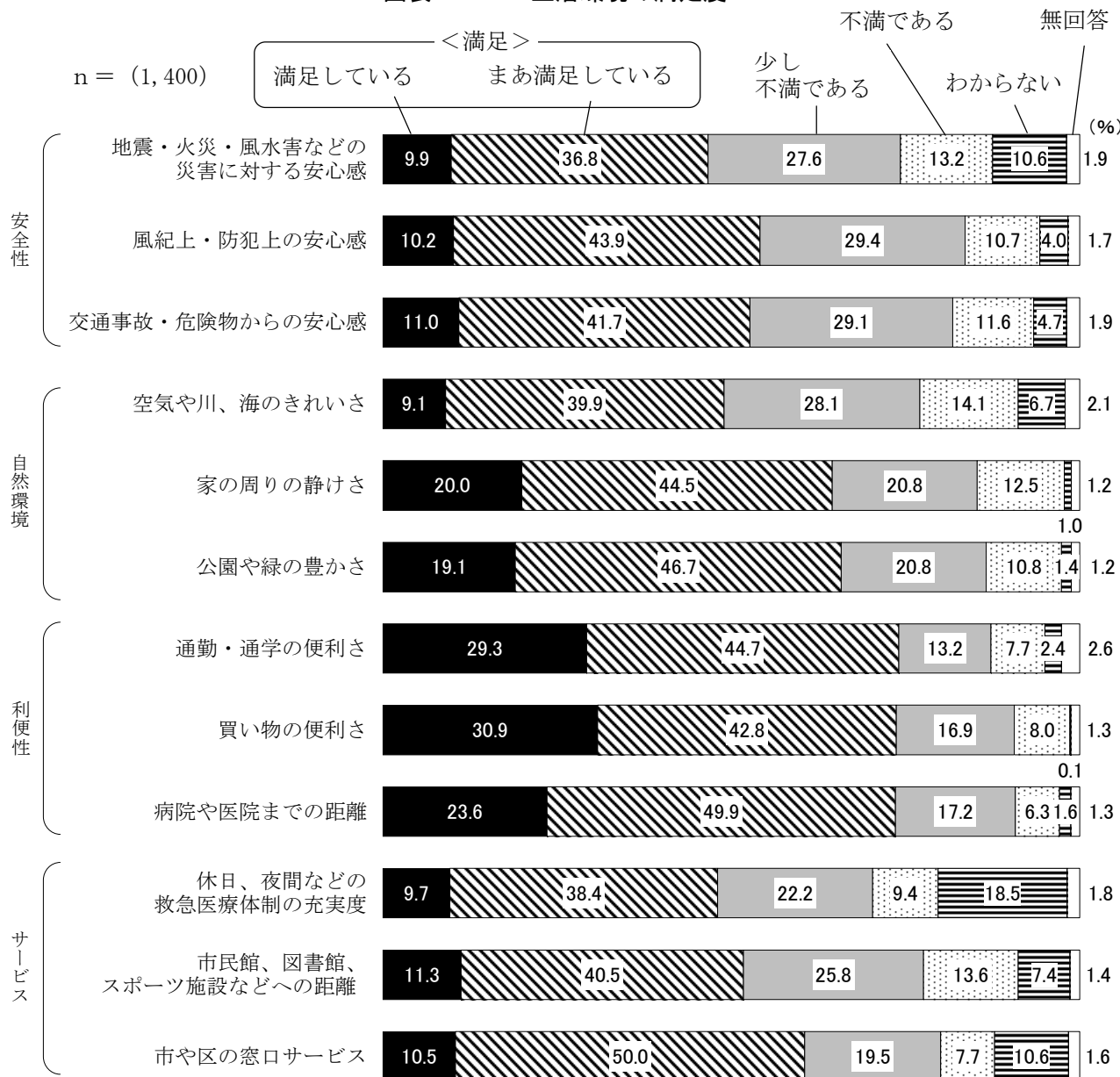
2 生活環境の評価について

2-1 生活環境の満足度

◎<満足>が多いのは、「通勤・通学の便利さ」、「買い物の便利さ」、「病院や医院までの距離」の利便性

問3 お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。
次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表 2-1 生活環境の満足度

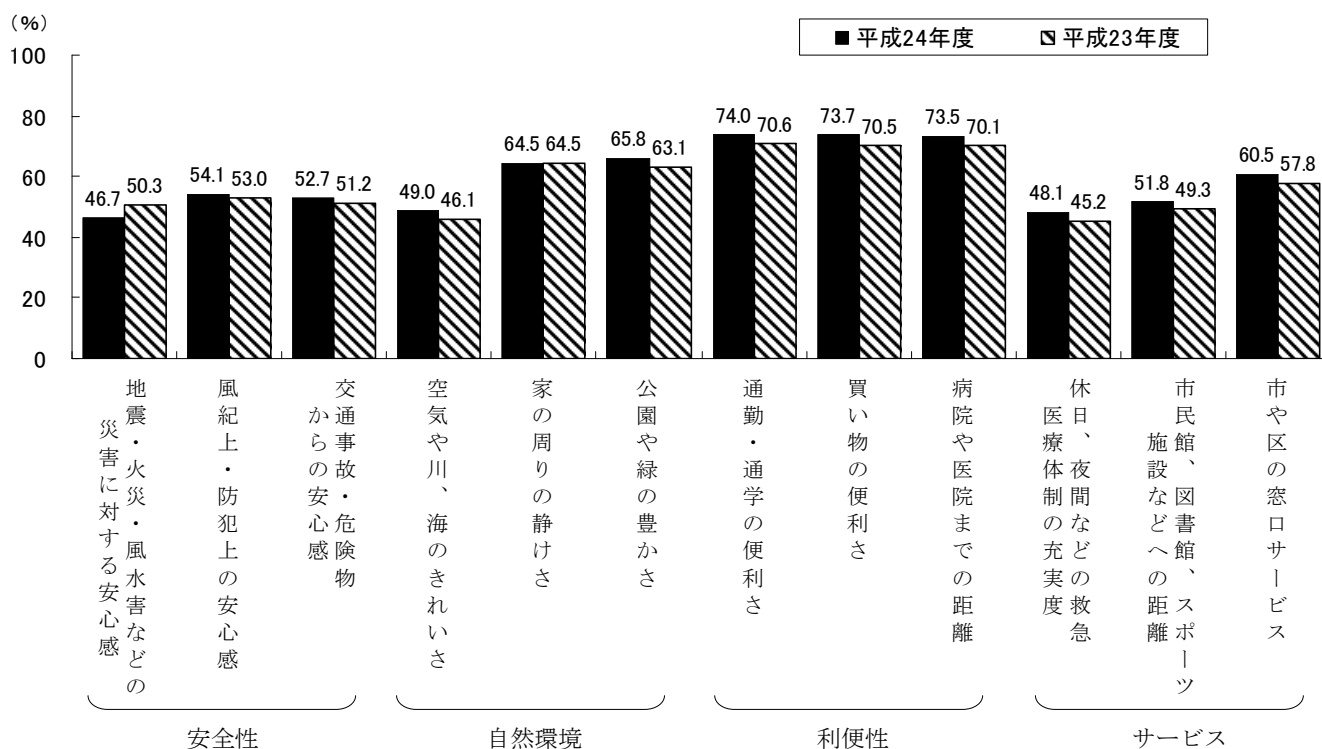


生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>は、『利便性』の「通勤・通学の便利さ」(74.0%)、「買い物の便利さ」(73.7%)、「病院や医院までの距離」(73.5%)が7割台と多くなっている。一方、<満足>が最も少ないのは、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」(46.7%)となっている。(図表2-1)

図表2-2 生活環境の満足度（＜満足＞、経年比較）

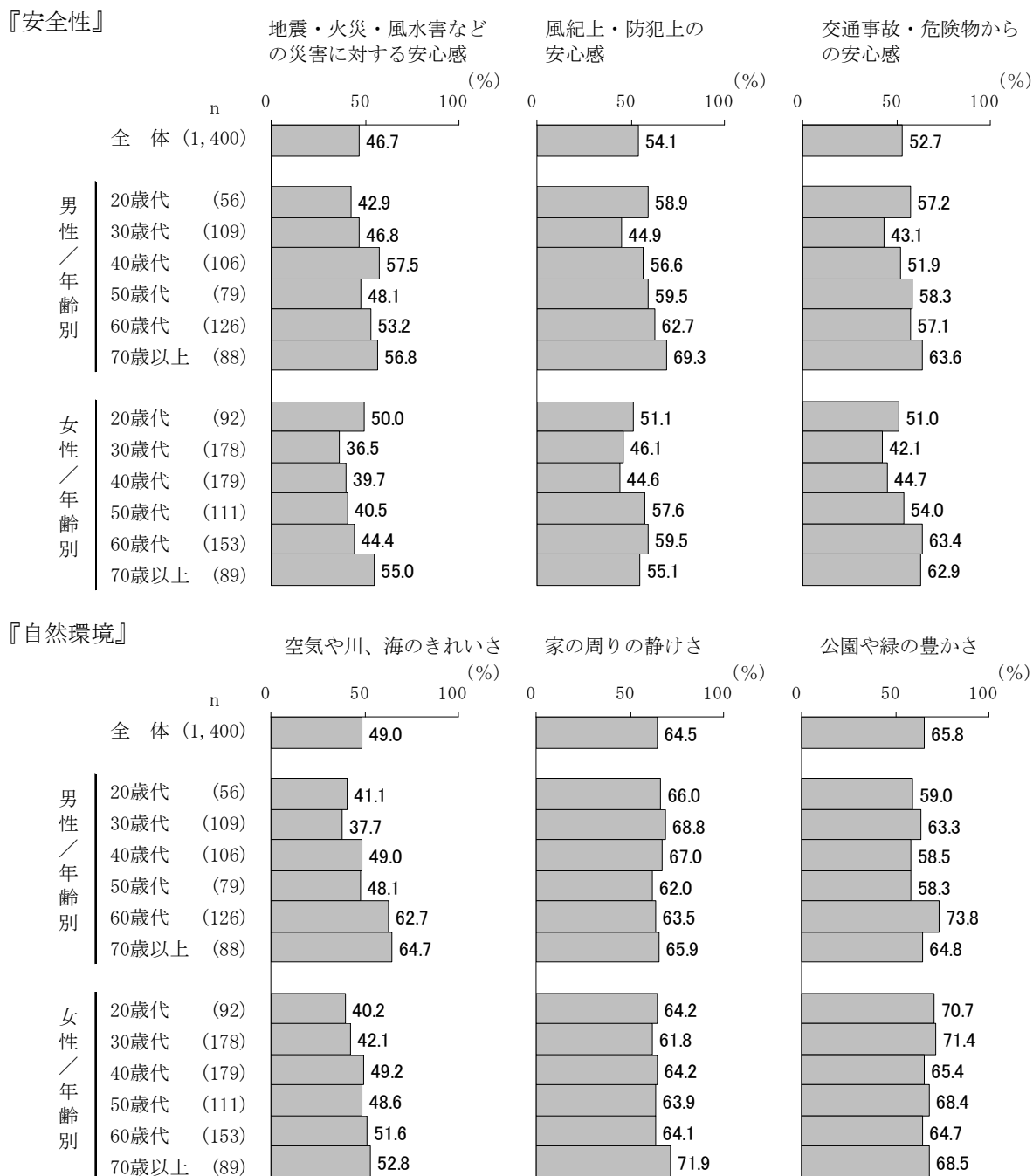
「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
24年度	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5
23年度	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8



平成23年度と比較すると、「通勤・通学の便利さ」「病院や医院までの距離」がそれぞれ3.4ポイント増加、「買い物の便利さ」が3.2ポイント増加など、12項目中10項目が増加しており、「家の周りの静けさ」は増減なしとなっている。一方、減少しているものは「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」の1項目で3.6ポイントの減少となっている。（図表2-2）

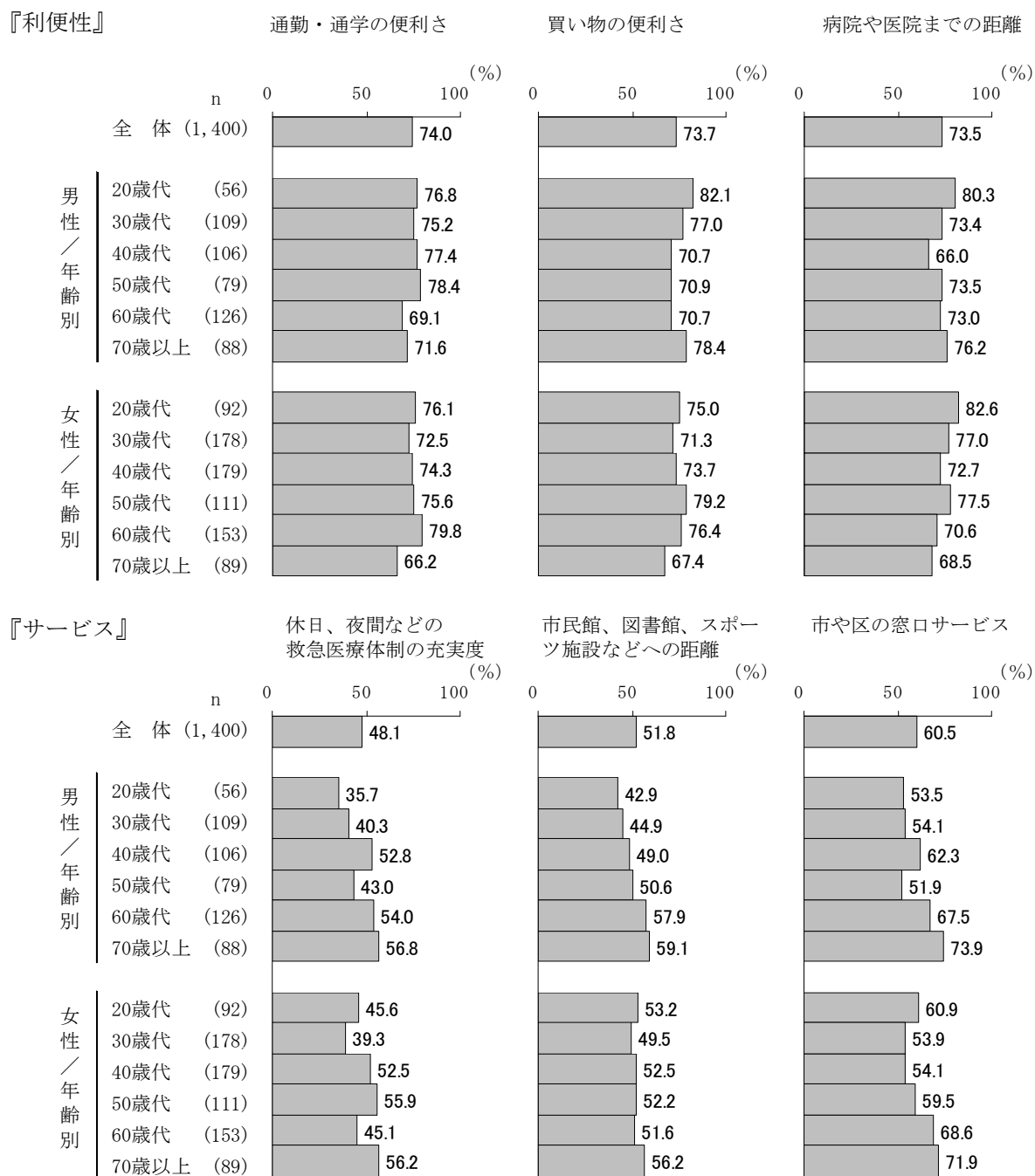
図表2-3 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



性/年齢別で『安全性』をみると、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は、女性30歳代(36.5%)・40歳代(39.7%)が3割台と少なくなっている。「風紀上・防犯上の安心感」は、男性70歳以上(69.3%)が最も多くなっている。「交通事故・危険物からの安心感」は、男性では70歳以上(63.6%)、女性では60歳代(63.4%)、70歳以上(62.9%)が多くなっている。

『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「家の周りの静けさ」は、女性70歳以上(71.9%)が最も多くなっている。「公園や緑の豊かさ」は、男性では60歳代(73.8%)、女性では20歳代(70.7%)、30歳代(71.4%)が7割を超え多くなっている。(図表2-3)

図表2-4 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は、男性では50歳代(78.4%)、女性では60歳代(79.8%)が最も多くなっている。「買い物の便利さ」は、男性では20歳代(82.1%)、女性では50歳代(79.2%)が最も多くなっている。「病院や医院までの距離」は、男女ともに20歳代が8割を超え最も多くなっている。

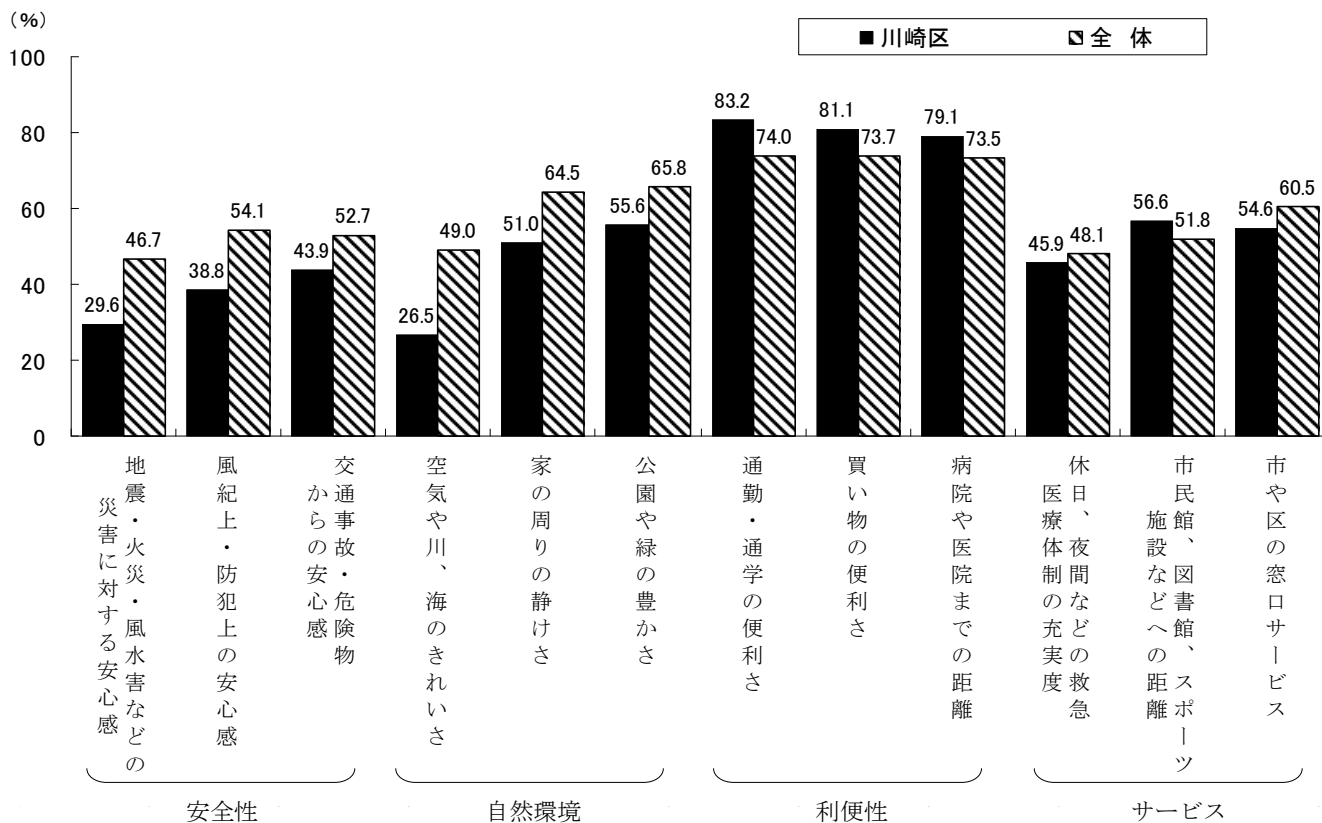
『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は、男性では20歳代(35.7%)、女性では30歳代(39.3%)が3割台と少なくなっている。「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」および「市や区の窓口のサービス」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。

(図表2-4)

図表2-5 生活環境の満足度 (<満足>、川崎区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
川崎区	29.6	38.8	43.9	26.5	51.0	55.6	83.2	81.1	79.1	45.9	56.6	54.6
全体	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5

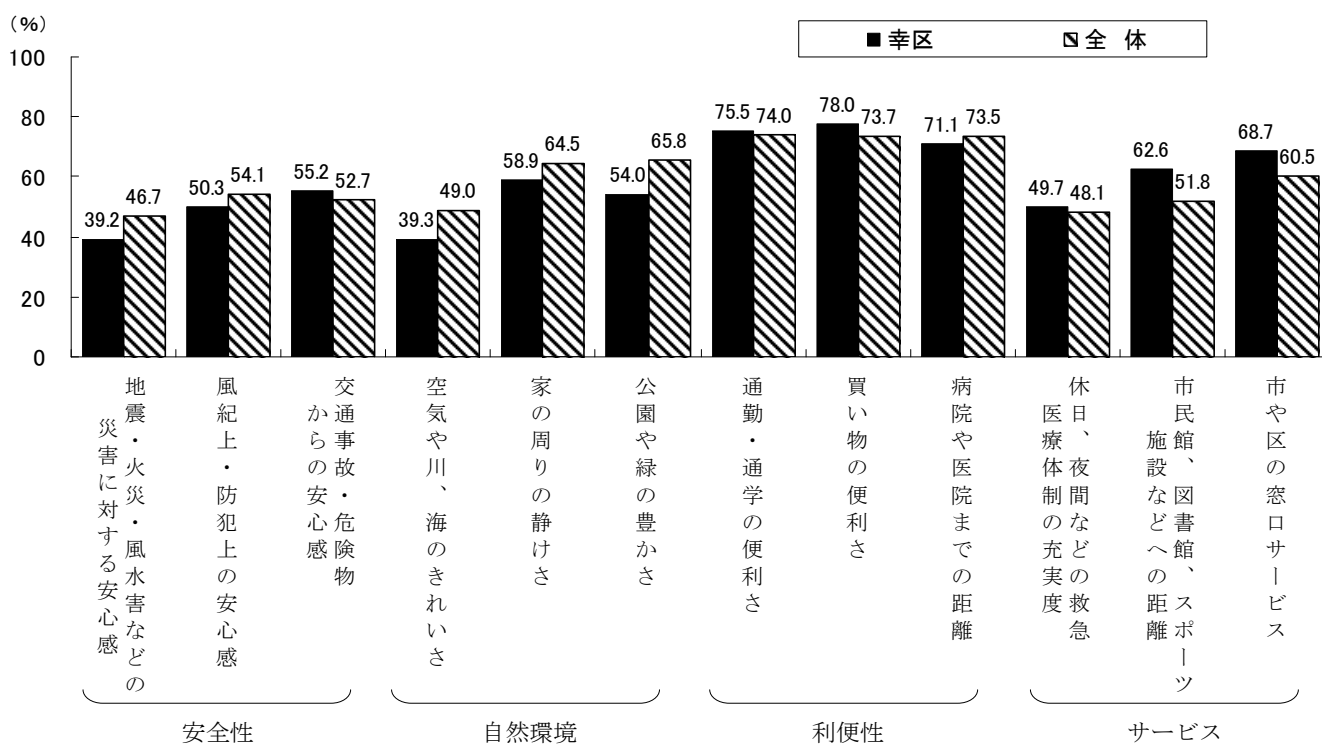


川崎区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は 17.1 ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は 15.3 ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は 8.8 ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は 22.5 ポイント、「家の周りの静けさ」は 13.5 ポイント、「公園や緑の豊かさ」は 10.2 ポイント下回っている。一方、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は 9.2 ポイント、「買い物の便利さ」は 7.4 ポイント、「病院や医院までの距離」は 5.6 ポイント上回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 2.2 ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 4.8 ポイントのプラス、「市や区の窓口サービス」は 5.9 ポイントのマイナスとなっている。(図表2-5)

図表2-6 生活環境の満足度 (<満足>、幸区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
幸区	39.2	50.3	55.2	39.3	58.9	54.0	75.5	78.0	71.1	49.7	62.6	68.7
全体	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5

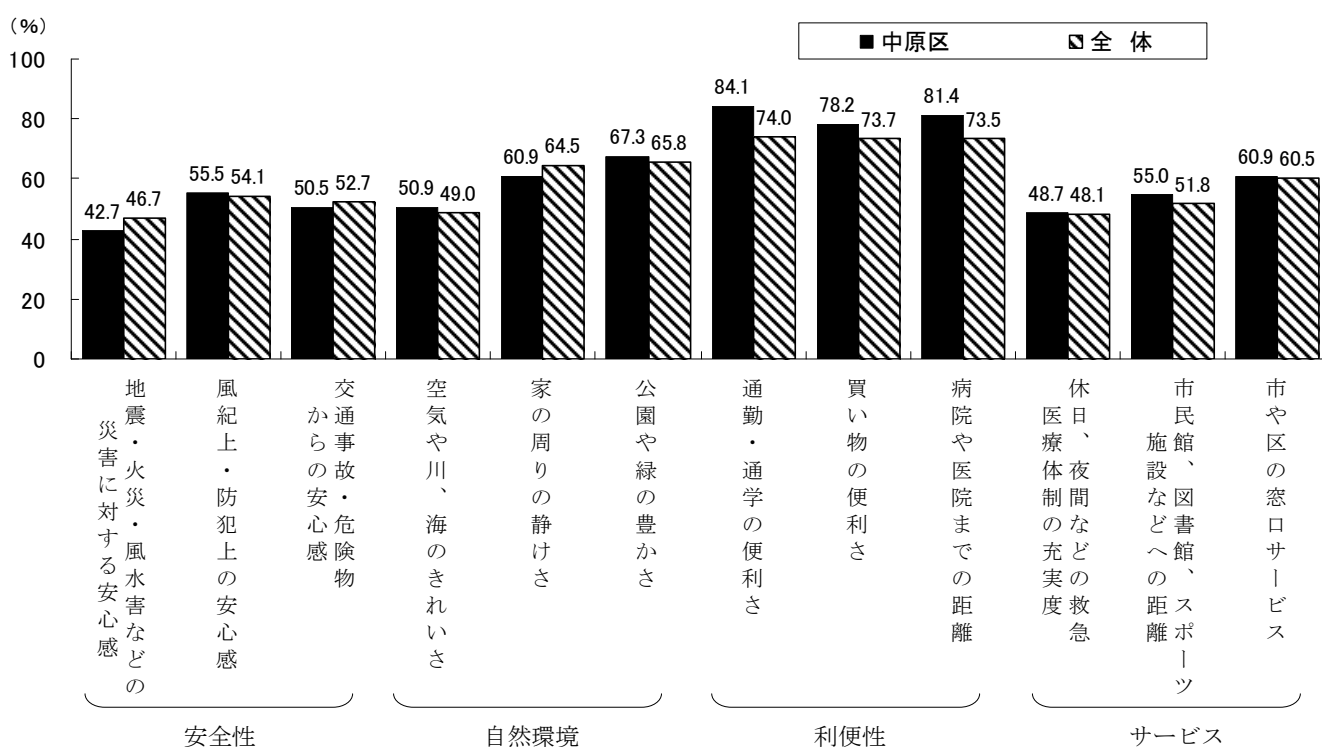


幸区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は7.5ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は3.8ポイントのマイナス、「交通事故・危険物からの安心感」は2.5ポイントのプラスとなっている。『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「空気や川、海のきれいさ」は9.7ポイント、「家の周りの静けさ」は5.6ポイント、「公園や緑の豊かさ」は11.8ポイント下回っている。『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は1.5ポイントのプラス、「買い物の便利さ」は4.3ポイントのプラス、「病院や医院までの距離」は2.4ポイントのマイナスとなっている。『サービス』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は1.6ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は10.8ポイント、「市や区の窓口サービス」は8.2ポイント上回っている。(図表2-6)

図表2-7 生活環境の満足度 (<満足>、中原区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
中原区	42.7	55.5	50.5	50.9	60.9	67.3	84.1	78.2	81.4	48.7	55.0	60.9
全体	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5

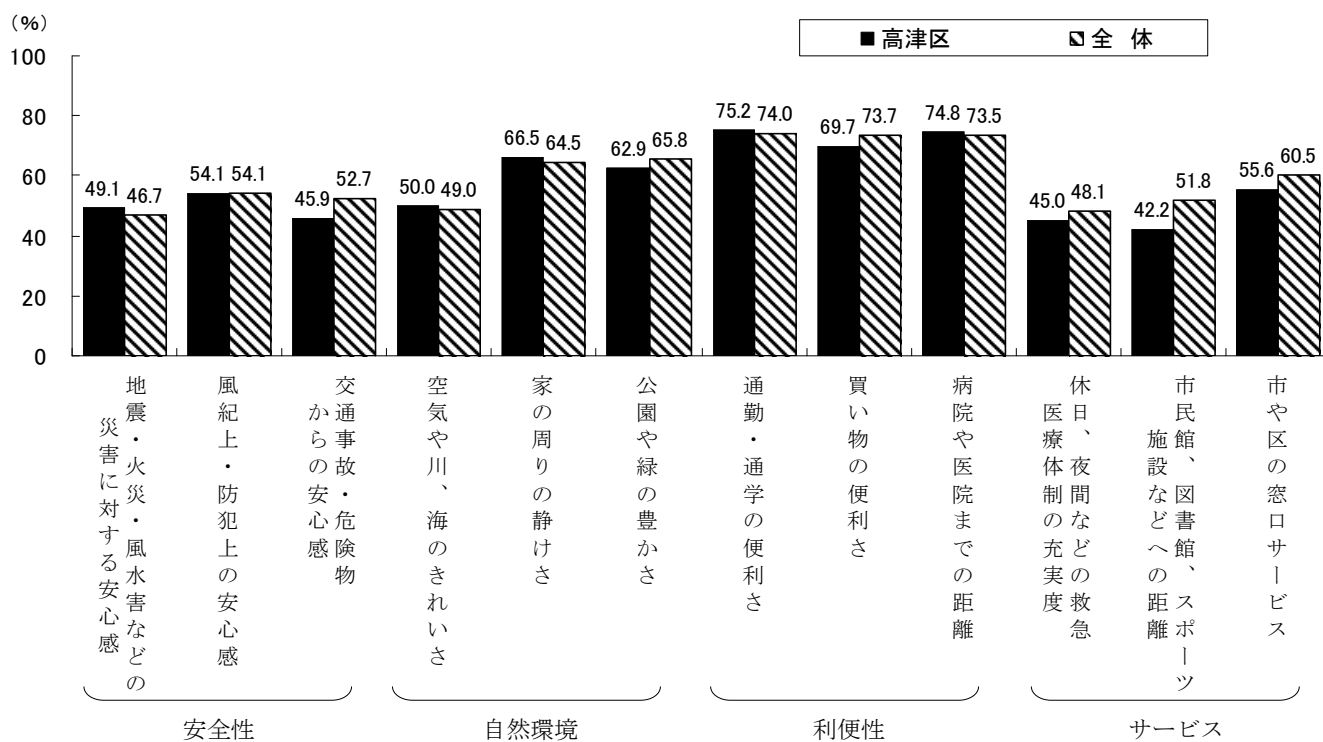


中原区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は4.0ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は1.4ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は2.2ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は1.9ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は3.6ポイントのマイナス、「公園や緑の豊かさ」は1.5ポイントのプラスとなっている。『利便性』、『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は10.1ポイント、「買い物の便利さ」は4.5ポイント、「病院や医院までの距離」は7.9ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は0.6ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は3.2ポイント、「市や区の窓口サービス」は0.4ポイント上回っている。(図表2-7)

図表2-8 生活環境の満足度 (<満足>、高津区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
高津区	49.1	54.1	45.9	50.0	66.5	62.9	75.2	69.7	74.8	45.0	42.2	55.6
全体	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5

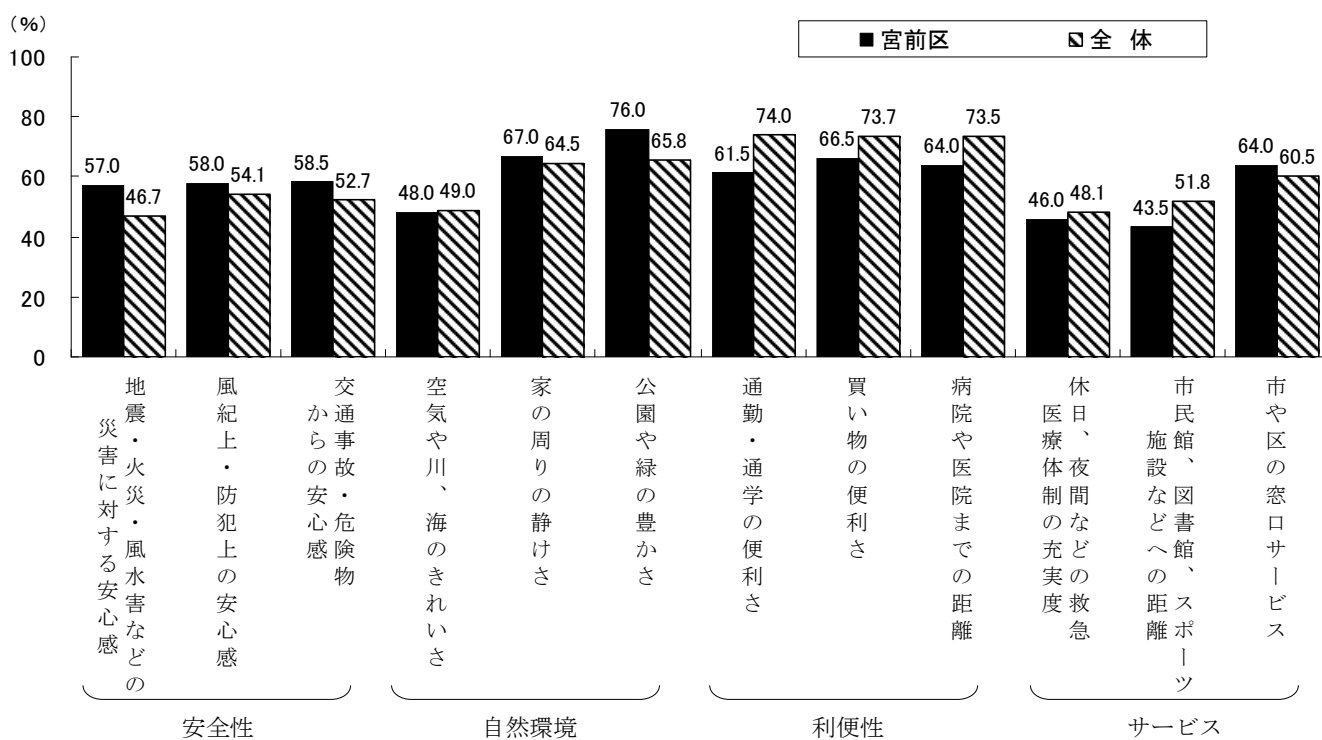


高津区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は2.4ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は市全体と同じ割合、「交通事故・危険物からの安心感」は6.8ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は1.0ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は2.0ポイントのプラス、「公園や緑の豊かさ」は2.9ポイントのマイナスとなっている。『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は1.2ポイントのプラス、「買い物の便利さ」は4.0ポイントのマイナス、「病院や医院までの距離」は1.3ポイントのプラスとなっている。『サービス』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は3.1ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は9.6ポイント、「市や区の窓口サービス」は4.9ポイント下回っている。(図表2-8)

図表2-9 生活環境の満足度 (<満足>、宮前区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
宮前区	57.0	58.0	58.5	48.0	67.0	76.0	61.5	66.5	64.0	46.0	43.5	64.0
全体	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5

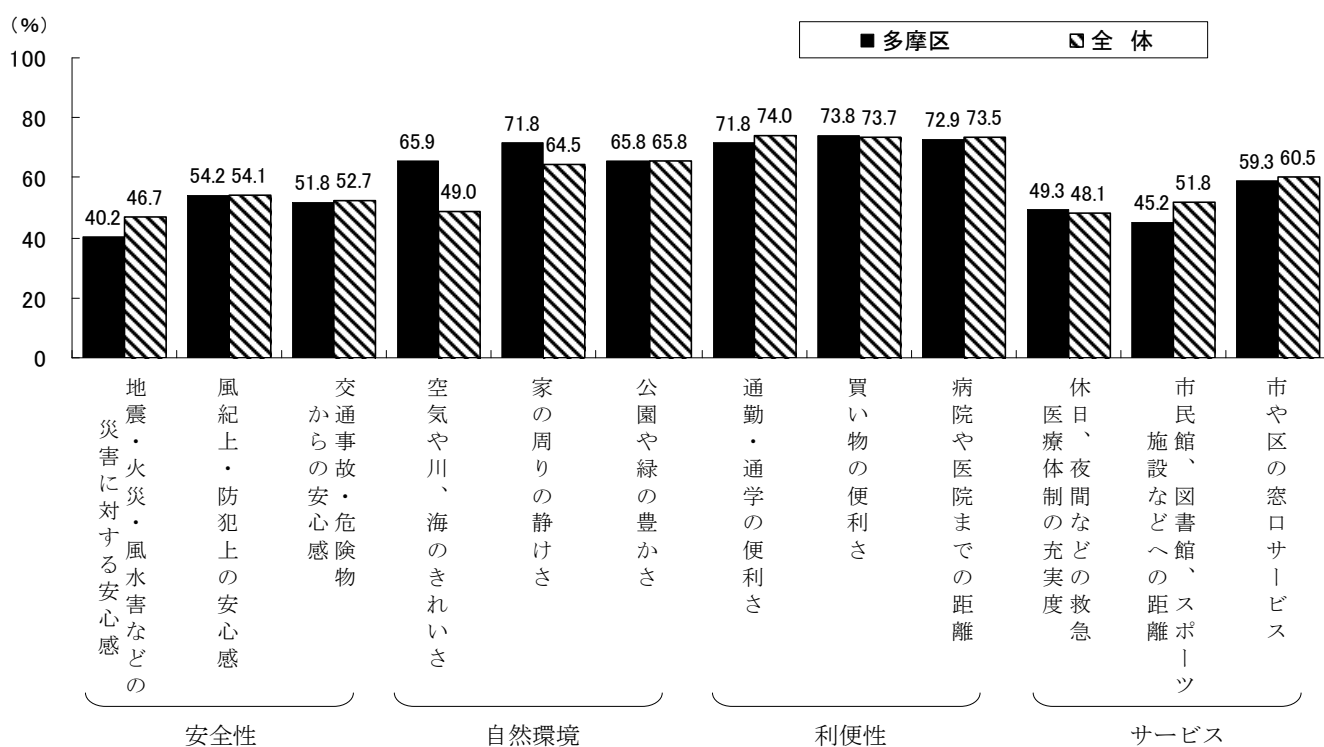


宮前区の生活環境満足度は、『安全性』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は10.3ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は3.9ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は5.8ポイント上回っている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は1.0ポイントのマイナス、「家の周りの静けさ」は2.5ポイントのプラス、「公園や緑の豊かさ」は10.2ポイントのプラスとなっている。『利便性』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は12.5ポイント、「買い物の便利さ」は7.2ポイント、「病院や医院までの距離」は9.5ポイント下回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は2.1ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は8.3ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は3.5ポイントのプラスとなっている。(図表2-9)

図表2-10 生活環境の満足度 (<満足>、多摩区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
多摩区	40.2	54.2	51.8	65.9	71.8	65.8	71.8	73.8	72.9	49.3	45.2	59.3
全体	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5



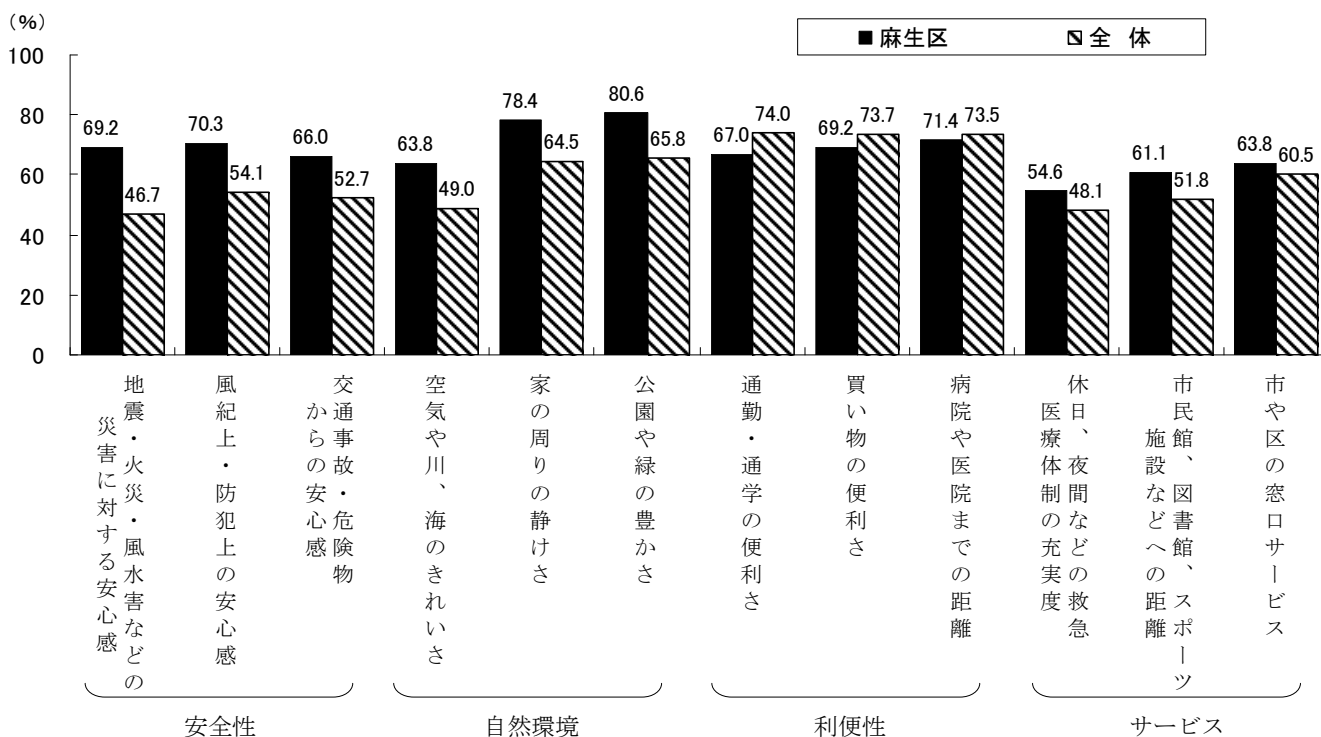
多摩区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は6.5ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は0.1ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は0.9ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は16.9ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は7.3ポイントのプラス、「公園や緑の豊かさ」は市全体と同じ割合となっている。『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は2.2ポイントのマイナス、「買い物の便利さ」は0.1ポイントのプラス、「病院や医院までの距離」は0.6ポイントのマイナスとなっている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は1.2ポイントのプラス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は6.6ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は1.2ポイントのマイナスとなっている。(図表2-10)

図表2-11 生活環境の満足度 (<満足>、麻生区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

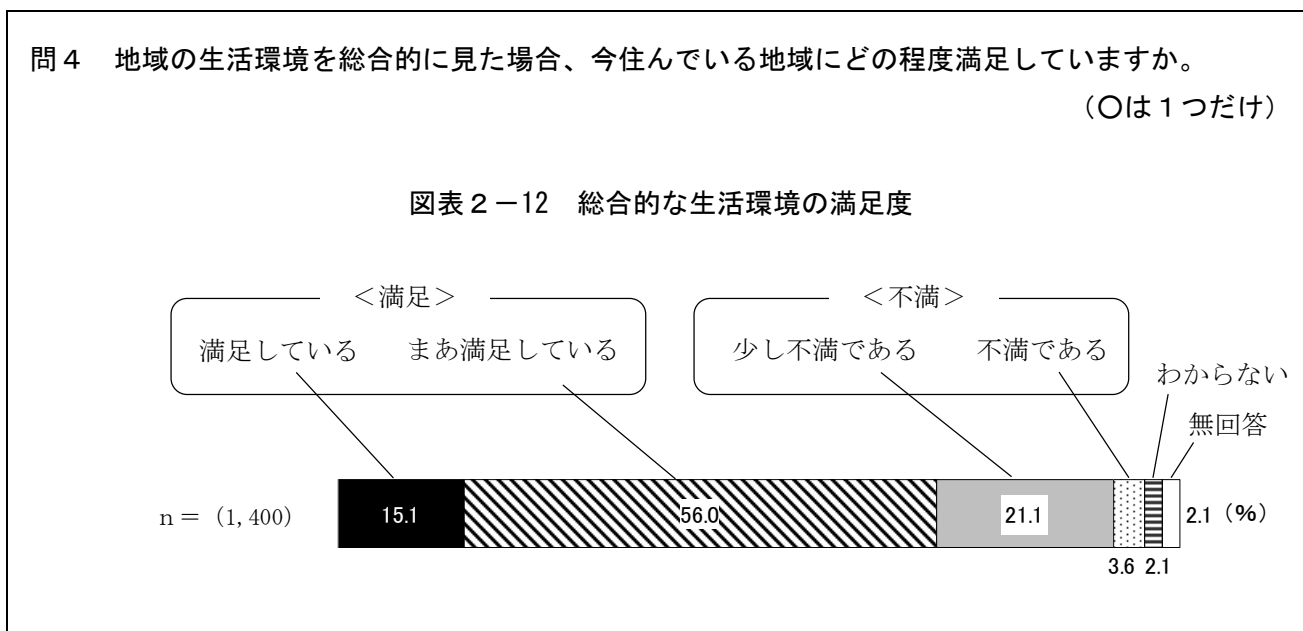
	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
麻生区	69.2	70.3	66.0	63.8	78.4	80.6	67.0	69.2	71.4	54.6	61.1	63.8
全体	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5



麻生区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は22.5ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は16.2ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は13.3ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は14.8ポイント、「家の周りの静けさ」は13.9ポイント、「公園や緑の豊かさ」は14.8ポイント上回っている。『利便性』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は7.0ポイント、「買い物の便利さ」は4.5ポイント、「病院や医院までの距離」は2.1ポイント下回っている。『サービス』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は6.5ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は9.3ポイント、「市や区の窓口サービス」は3.3ポイント上回っている。(図表2-11)

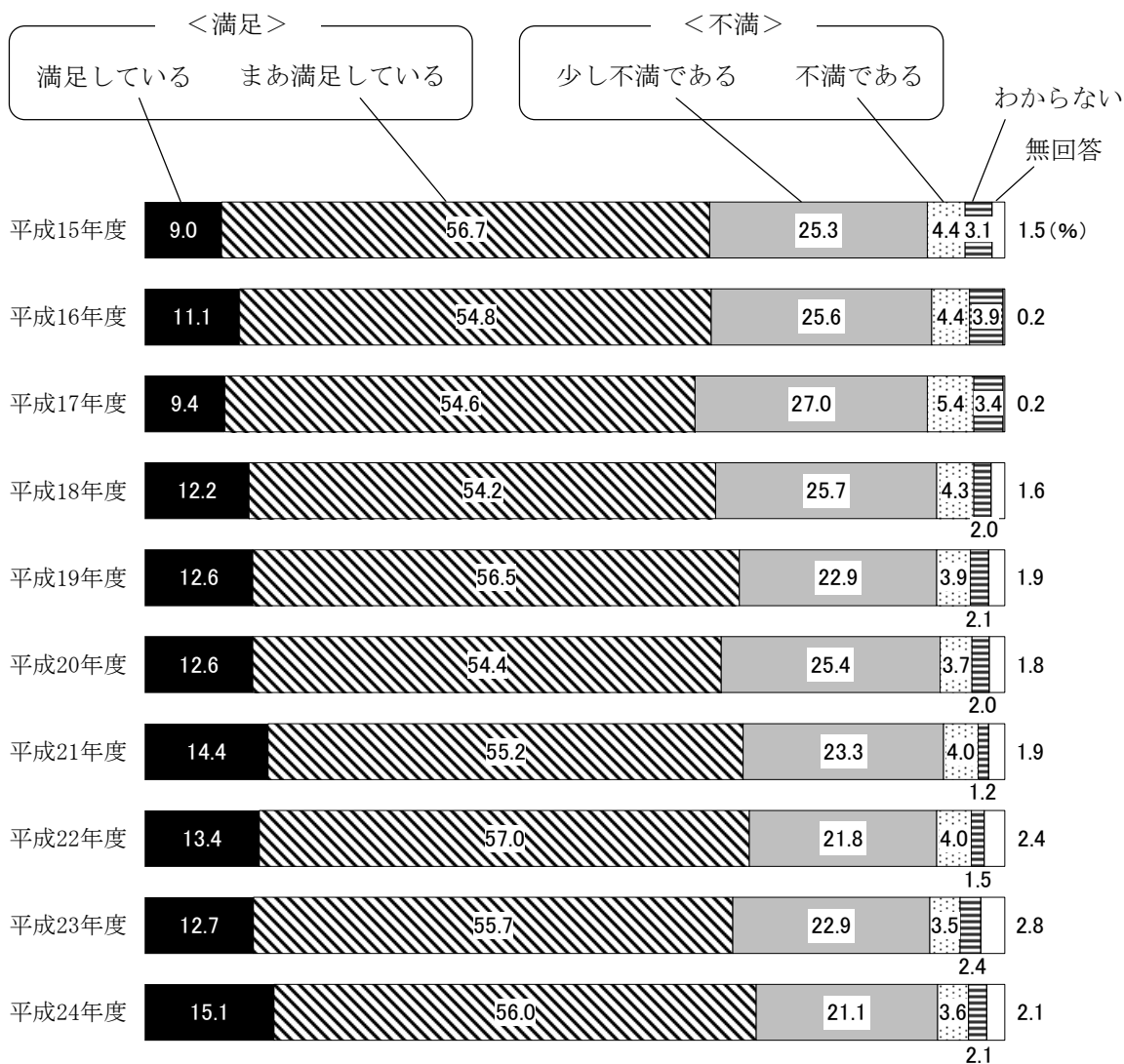
2-2 総合的な生活環境の満足度

◎<満足>が71.1%



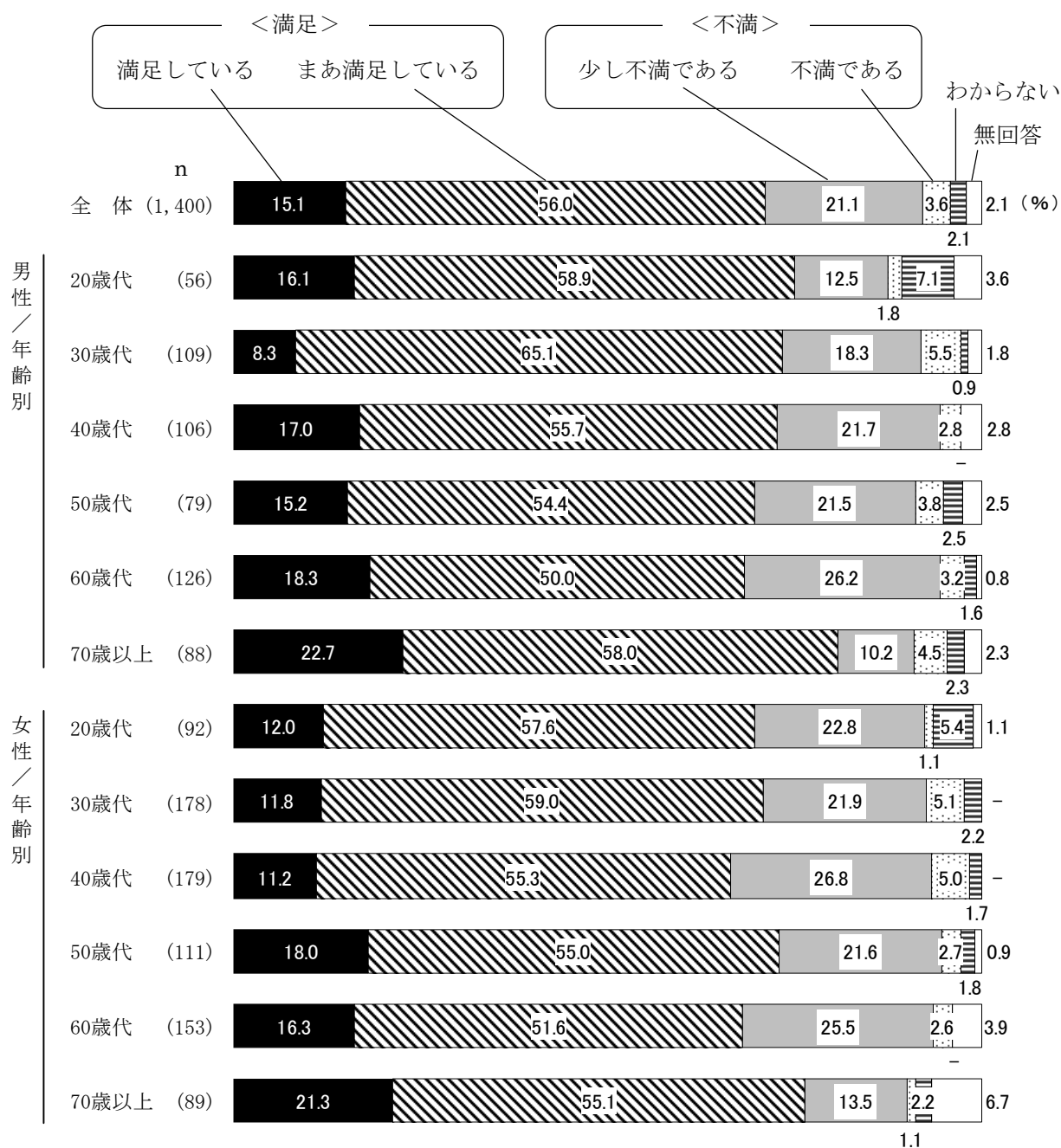
総合的な生活環境は、「満足している」(15.1%)と「まあ満足している」(56.0%)をあわせた<満足>は71.1%となっている。一方、「少し不満である」(21.1%)と「不満である」(3.6%)をあわせた<不満>は24.7%となっている。(図表2-12)

図表 2-13 総合的な生活環境の満足度 (経年比較)



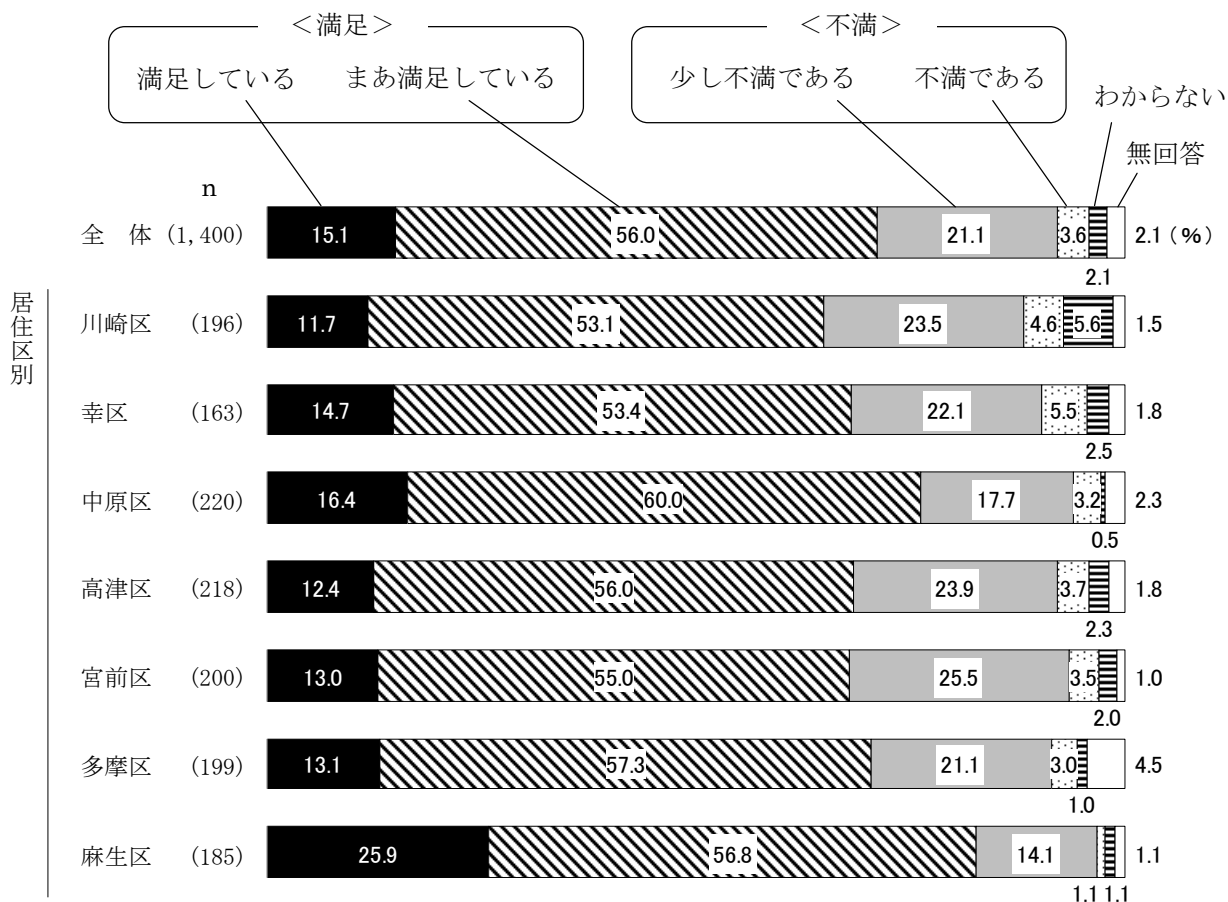
過去の推移では、＜満足＞は、平成15年度以降おおむね増加傾向にあり、平成24年度は前年度に比べ2.7ポイントの増加で7割を超えている。(図表2-13)

図表2-14 総合的な生活環境の満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、<満足>は、男性では70歳以上(80.7%)が8割台と最も多くなっている。次いで、20歳代(75.0%)、30歳代(73.4%)の順となっている。女性でも70歳以上(76.4%)が最も多くなっている。次いで、50歳代(73.0%)、30歳代(70.8%)の順となっている。一方、<不満>は、男性では60歳代(29.4%)、女性では40歳代(31.8%)が最も多くなっている。(図表2-14)

図表 2-15 総合的な生活環境の満足度 (居住区別)



居住区別では、<満足>は、麻生区 (82.7%) と最も多くなっている。次いで、中原区 (76.4%)、多摩区 (70.4%) の順となっている。<不満>は、宮前区 (29.0%) が最も多くなっている。次いで、川崎区 (28.1%)、幸区・高津区 (それぞれ 27.6%) の順となっている。(図表 2-15)

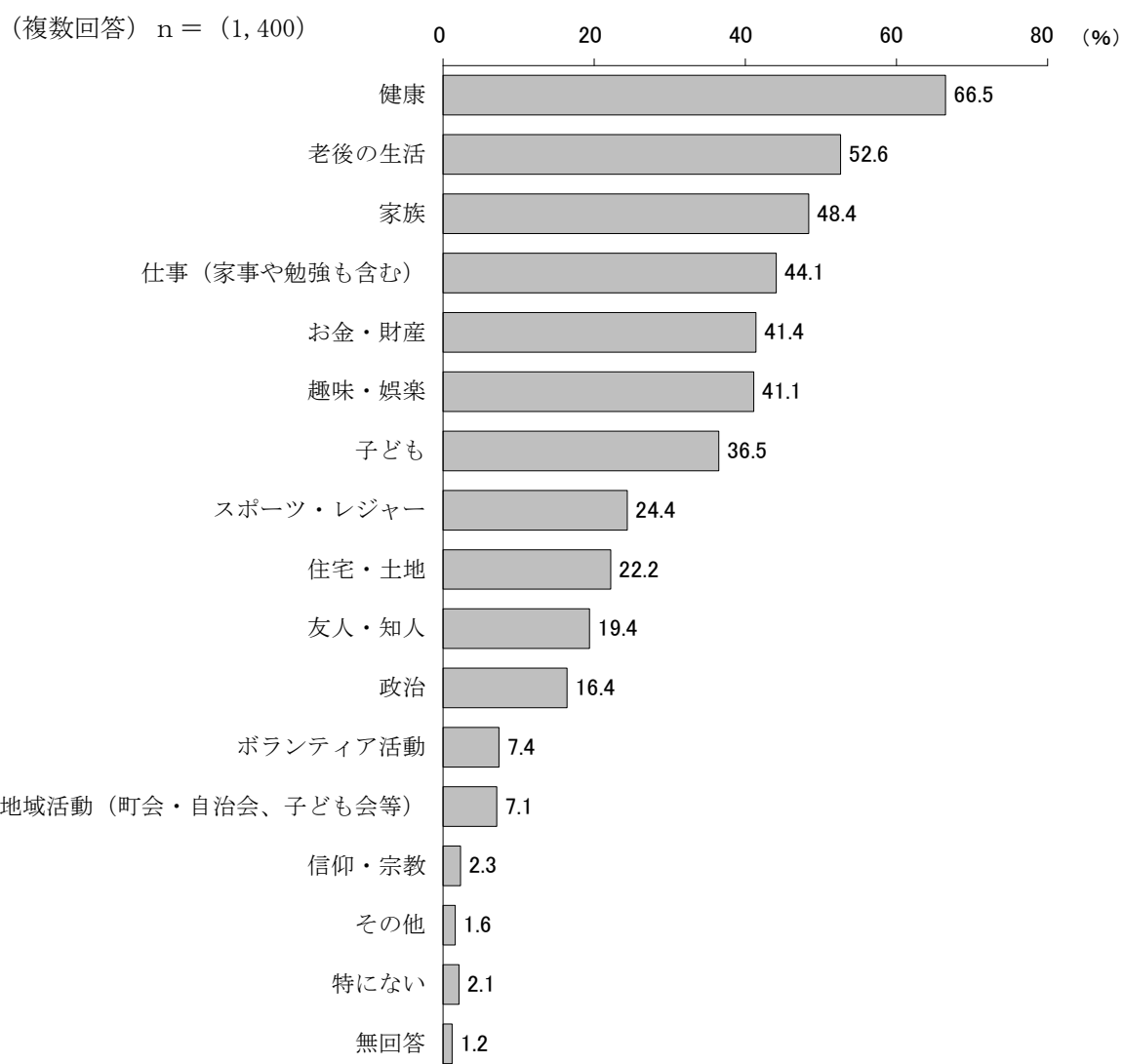
3 関心ごとと行動範囲について

3-1 関心を持っていること

◎「健康」が66.5%

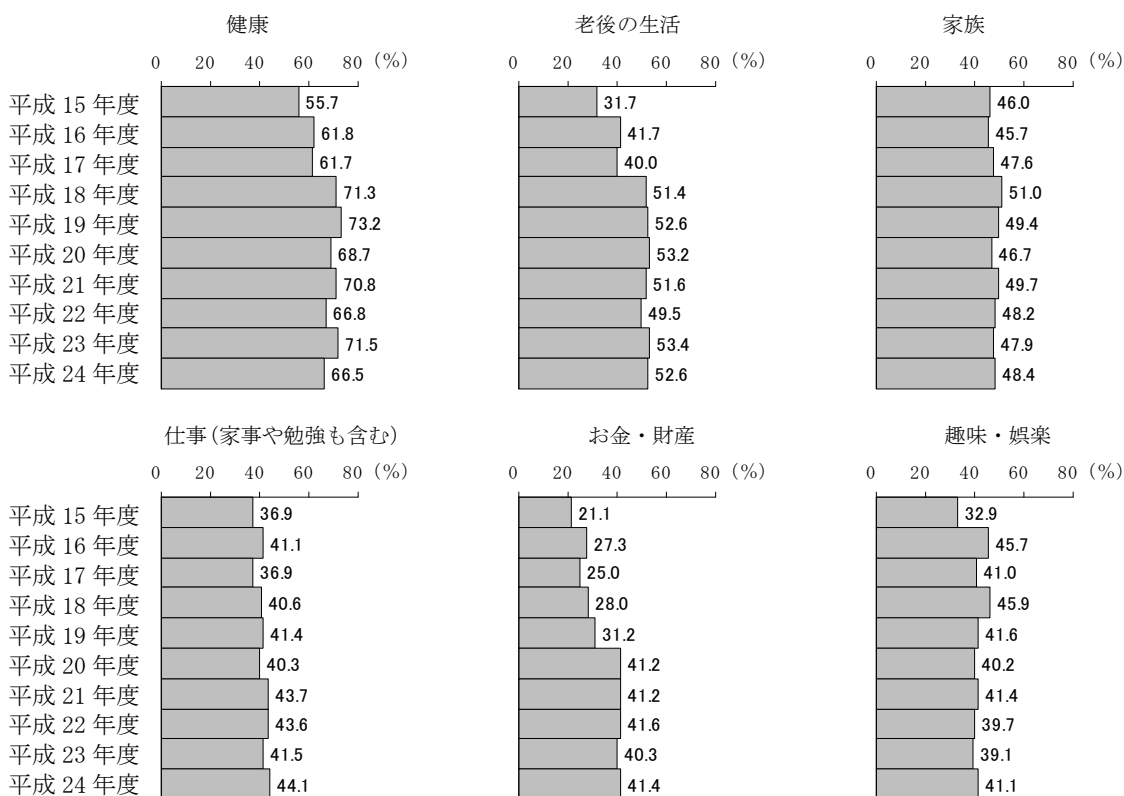
問5 現在特に関心をお持ちのことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-1 関心を持っていること



関心を持っていることは、「健康」(66.5%)が最も多くなっている。次いで、「老後の生活」(52.6%)、「家族」(48.4%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(44.1%)、「お金・財産」(41.4%)、「趣味・娯楽」(41.1%)の順となっている。(図表3-1)

図表3-2 関心を持っていること（経年比較、上位6項目）



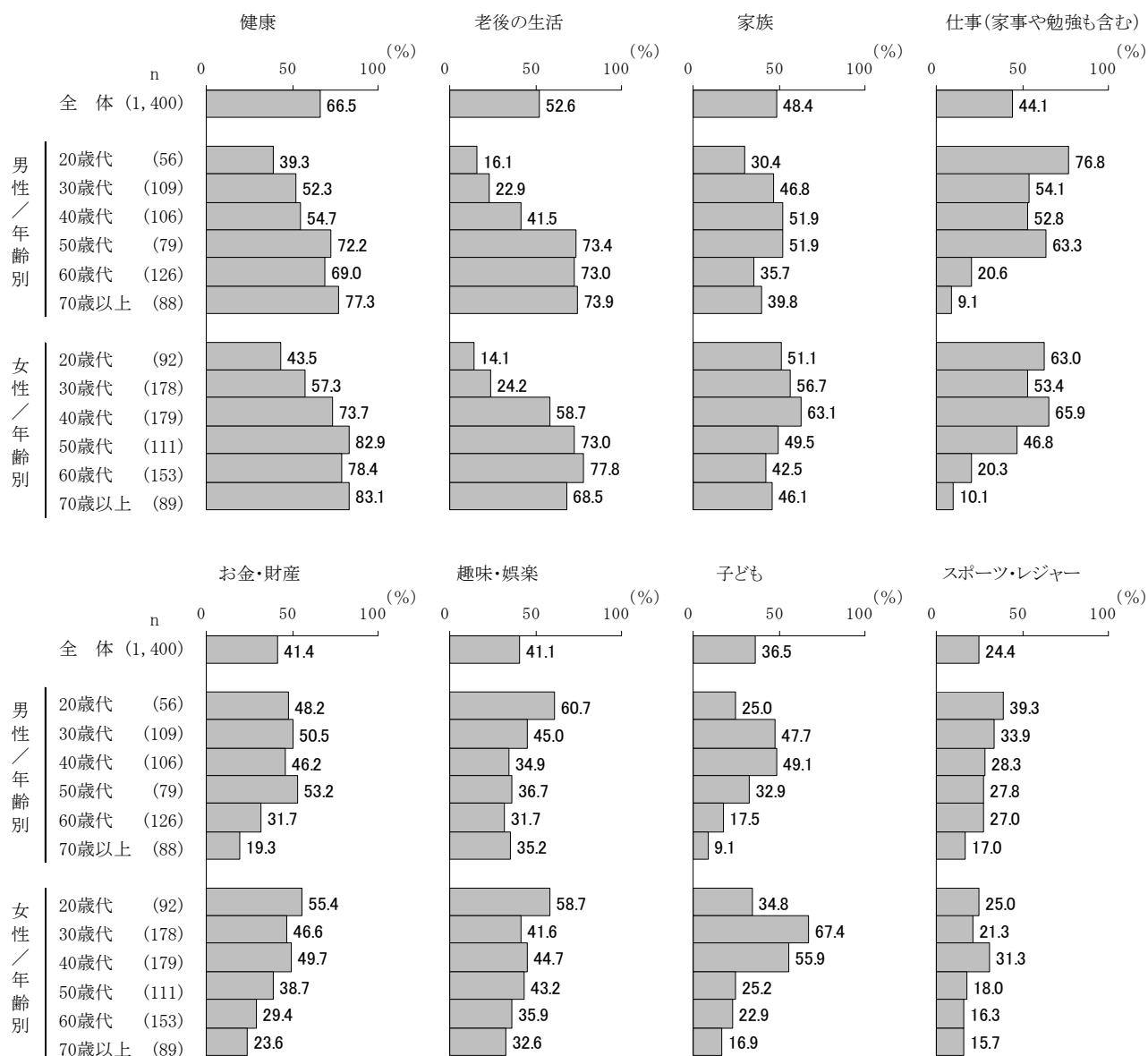
(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成15年度	健康 55.7	家族 46.0	仕事(家事や勉強も含む) 36.9	子ども 34.1	趣味・娯楽 32.9	老後の生活 31.7
平成16年度	健康 61.8	家族/趣味・娯楽 45.7	老後の生活 41.7	仕事(家事や勉強も含む) 41.1	子ども 34.5	仕事(家事や勉強も含む) 36.9
平成17年度	健康 61.7	家族 47.6	趣味・娯楽 41.0	老後の生活 40.0	子ども 37.7	仕事(家事や勉強も含む) 36.9
平成18年度	健康 71.3	老後の生活 51.4	家族 51.0	趣味・娯楽 45.9	仕事(家事や勉強も含む) 40.6	子ども 35.5
平成19年度	健康 73.2	老後の生活 52.6	家族 49.4	趣味・娯楽 41.6	仕事(家事や勉強も含む) 41.4	子ども 34.0
平成20年度	健康 68.7	老後の生活 53.2	家族 46.7	お金・財産 41.2	仕事(家事や勉強も含む) 40.3	趣味・娯楽 40.2
平成21年度	健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2
平成22年度	健康 66.8	老後の生活 49.5	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.6	お金・財産 41.6	趣味・娯楽 39.7
平成23年度	健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1
平成24年度	健康 66.5	老後の生活 52.6	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	お金・財産 41.4	趣味・娯楽 41.1

注：「お金・財産」は平成19年度調査までは「金・財産」であった。

上位の6項目について、平成15年度以降を比較した。平成23年度と比較すると、上位6項目に順位の変動は無い。なお、上位2項目（「健康」「老後の生活」）はそれぞれポイントが減少しており、第3位～第6位の項目（「家族」「仕事（家事や勉強も含む）」「お金・財産」「趣味・娯楽」）はポイントが増加している。（図表3-2）

図表3-3 関心を持っていること(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「健康」および「老後の生活」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「家族」は、男性では40歳代・50歳代(それぞれ51.9%)、女性では40歳代(63.1%)が最も多くなっている。「仕事(家事や勉強も含む)」は、男性では20歳代(76.8%)が7割台で最も多く、次いで50歳代(63.3%)が6割台となっている。女性では、20歳代(63.0%)、40歳代(65.9%)が6割台と多くなっている。「お金・財産」は、男性では50歳代(53.2%)、女性では20歳代(55.4%)が最も多くなっている。「趣味・娯楽」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。「子ども」は、男性では30歳代(47.7%)、40歳代(49.1%)が4割台後半で多くなっており、女性では30歳代(67.4%)が6割台後半、40歳代(55.9%)が5割台半ばと多くなっている。「スポーツ・レジャー」は、男性では20歳代(39.3%)が最も多く、女性では40歳代(31.3%)が最も多くなっている。(図表3-3)

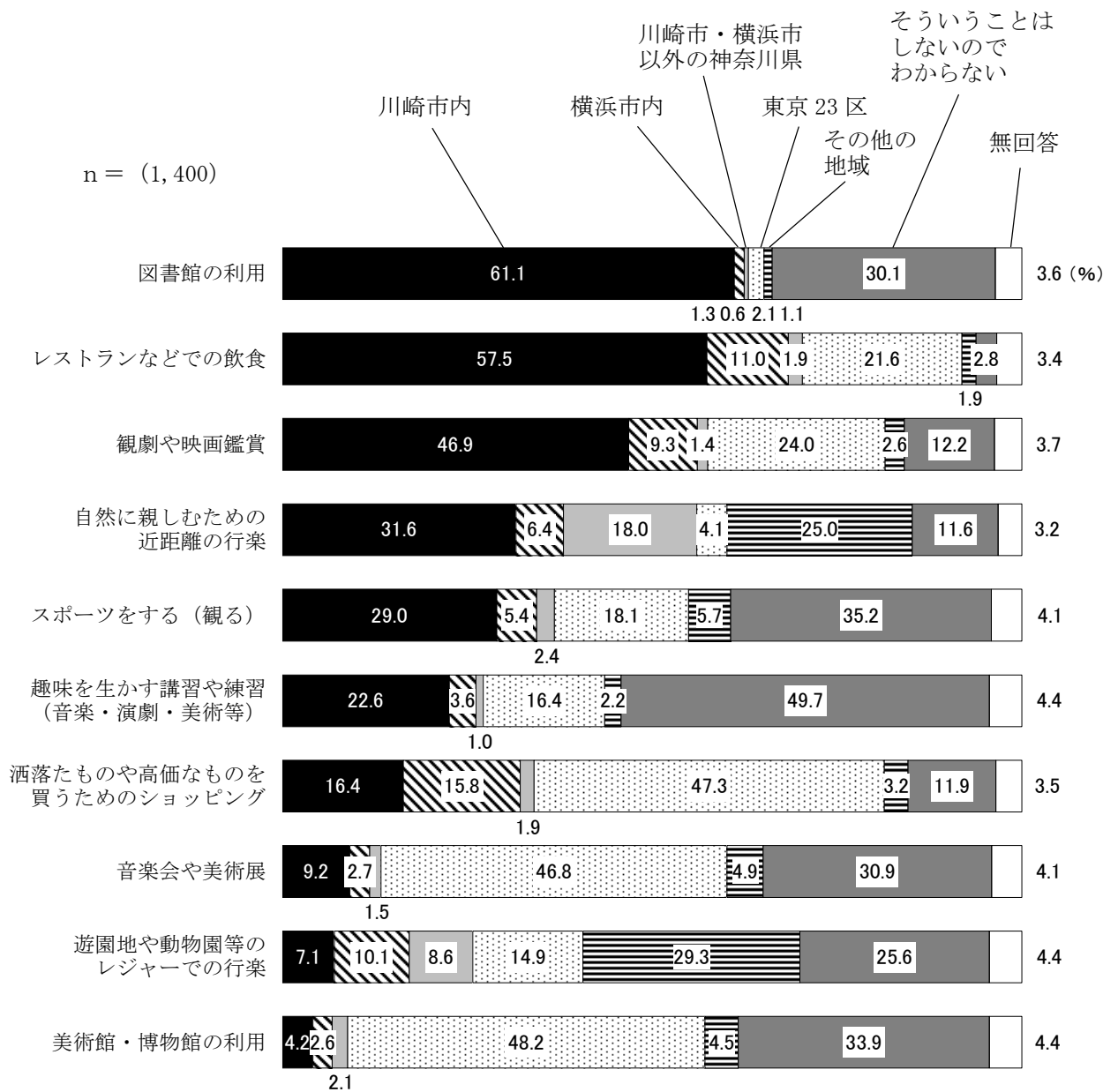
3-2 行動範囲

◎『川崎市内』が多いのは、「図書館の利用」61.1%、「レストランなどでの飲食」57.5%

問6 行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行かれますか。

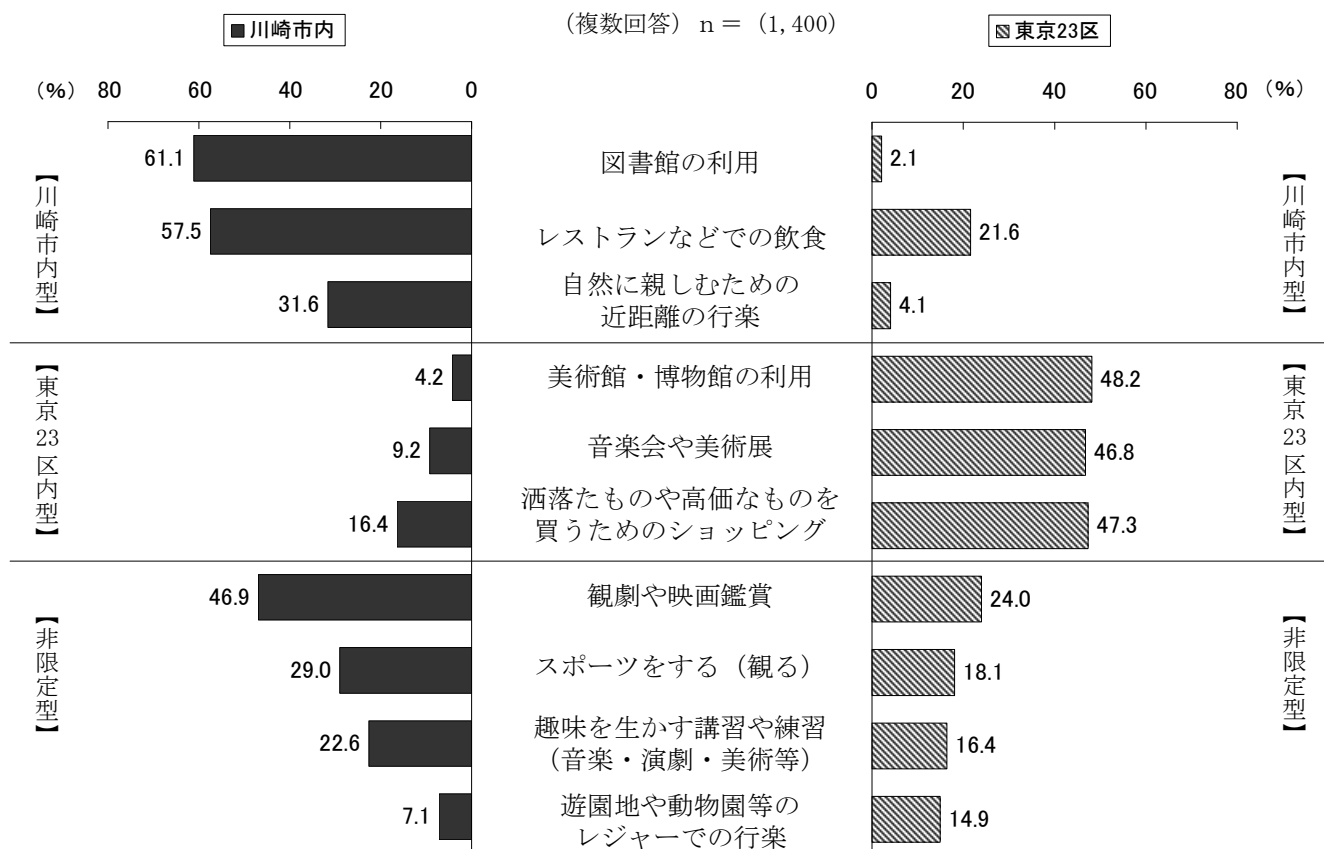
(○はそれぞれ1つずつ)

図表3-4 行動範囲



川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が最も多かったのは、「図書館の利用」(61.1%)となっている。次いで、「レストランなどでの飲食」(57.5%)、「観劇や映画鑑賞」(46.9%)の順となっている。一方、『東京23区』が最も多かったのは、「美術館・博物館の利用」(48.2%)となっている。次いで、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(47.3%)、「音楽会や美術展」(46.8%)の順となっている。(図表3-4)

図表3-5 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較)



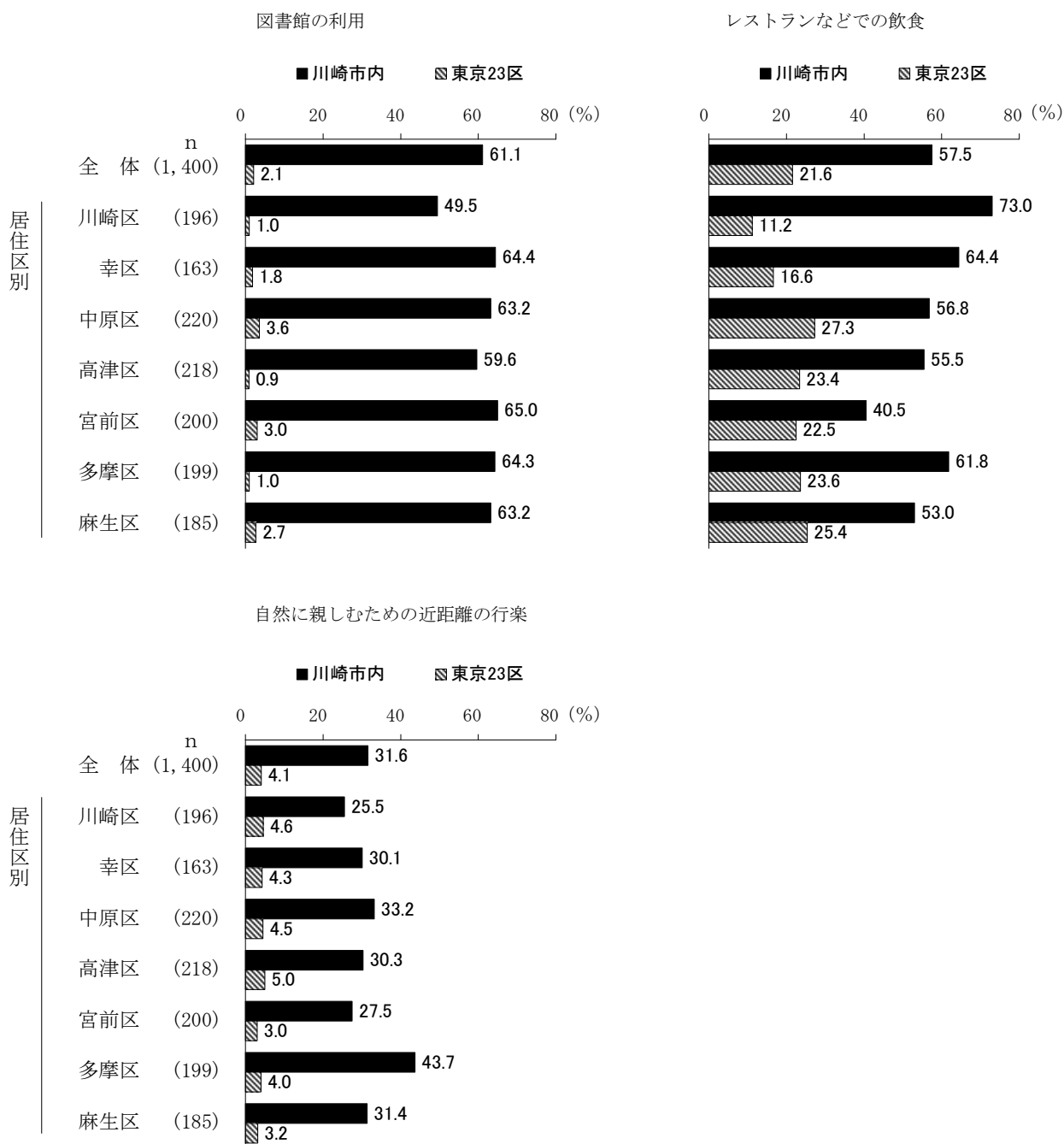
各項目について、行動範囲別に【川崎市内型】、【東京23区内型】、【非限定型】に分類すると以下ようになる。(図表3-5)

【川崎市内型】 …… 図書館の利用
 レストランなどでの飲食
 自然に親しむための近距離の行楽

【東京23区内型】 …… 美術館・博物館の利用
 音楽会や美術展
 洒落たものや高価なものを買うためのショッピング

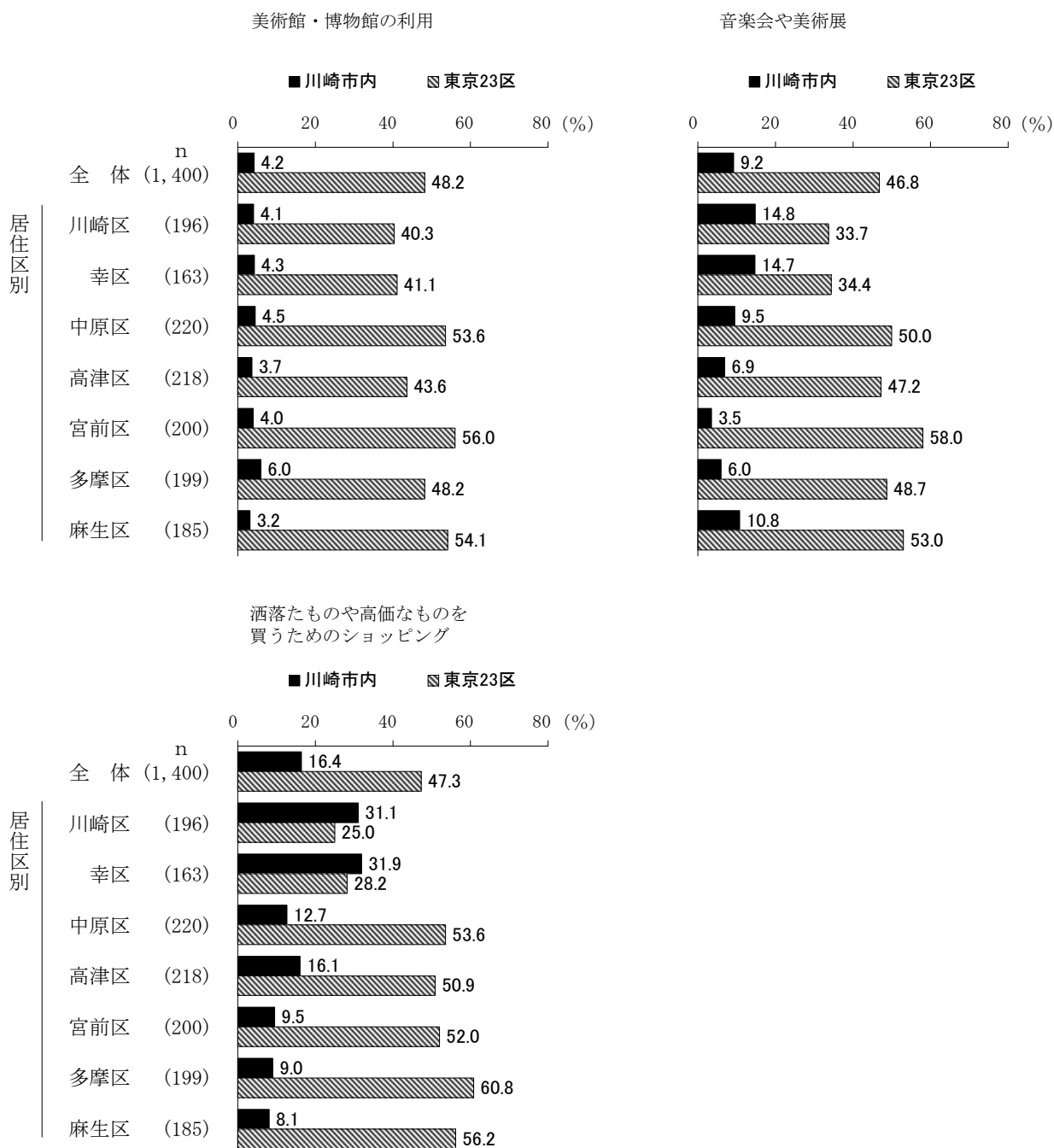
【非限定型】 …… 観劇や映画鑑賞
 スポーツをする(観る)
 趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)
 遊園地や動物園等のレジャーでの行楽

図表3-6 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【川崎市内型】



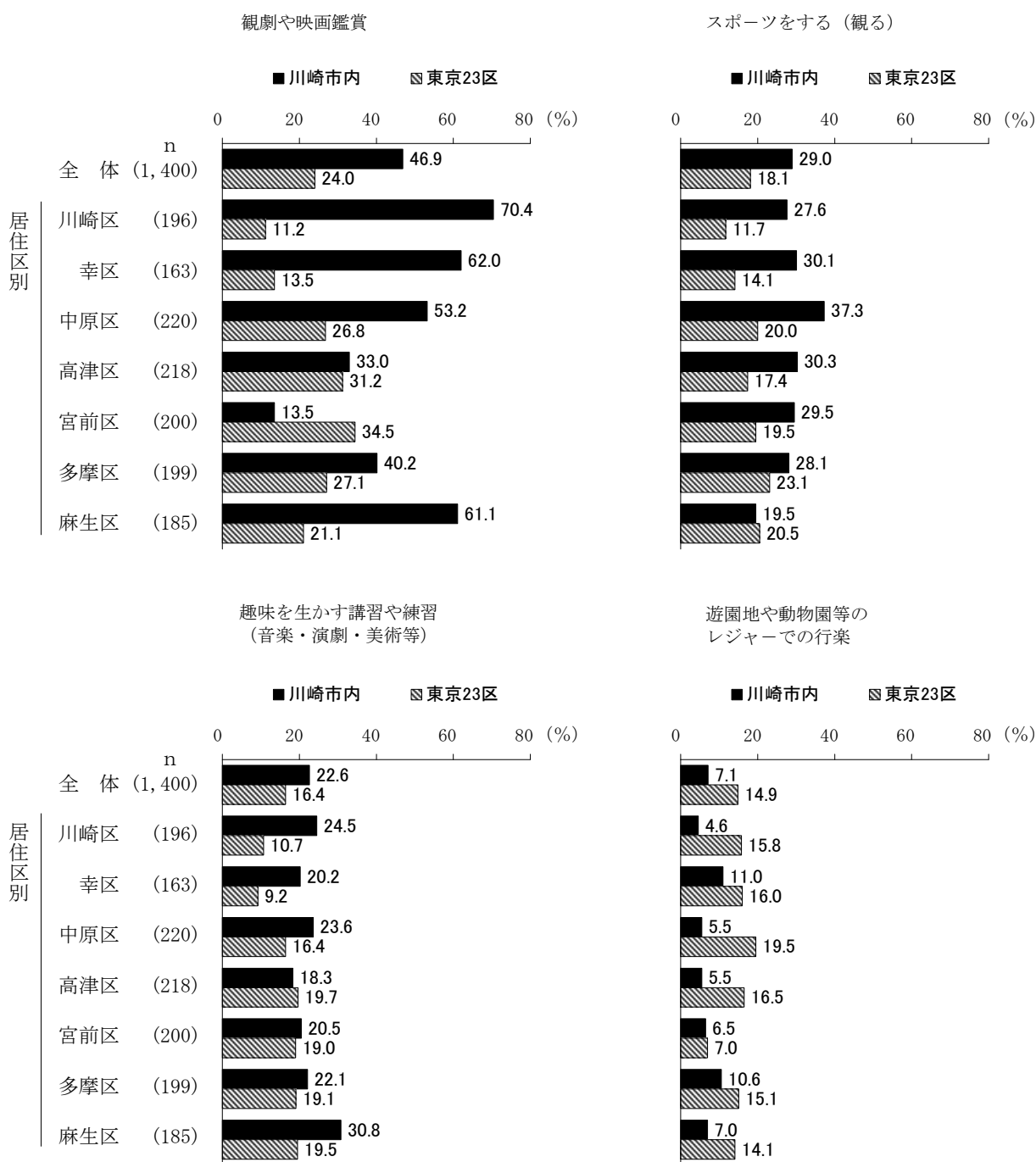
【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「図書館の利用」は、宮前区(65.0%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。「レストランなどでの飲食」は、川崎区(73.0%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率が最も高いのは中原区(27.3%)となっている。「自然に親しむための近距離の行楽」は、多摩区(43.7%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。(図表3-6)

図表3-7 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【東京23区内型】



【東京23区内型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は、宮前区(56.0%)が最も多くなっており、『川崎市内』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。「音楽会や美術展」も、宮前区(58.0%)が最も多くなっており、『川崎市内』の利用率が最も高いのは川崎区(14.8%)となっている。「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は、多摩区(60.8%)が最も多くなっている。なお、川崎区・幸区では『川崎市内』の利用率が3割を超えており、『東京23区』の利用率を上回っている。(図表3-7)

図表3-8 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【非限定型】



『川崎市内』や『東京23区』に限らず平均的な利用があると思われる【非限定型】4項目を、居住区別で比較すると、「観劇や映画鑑賞」は、川崎区(70.4%)で『川崎市内』の割合が7割台、幸区(62.0%)、麻生区(61.1%)で6割台と多くなっている。「スポーツをする(観る)」は、麻生区を除き、『川崎市内』が『東京23区』を上回っている。「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は、高津区を除き、『川崎市内』が『東京23区』を上回っている。「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は、いずれの居住区においても『東京23区』が『川崎市内』を上回っている。(図表3-8)

4 市政に対する評価と要望について

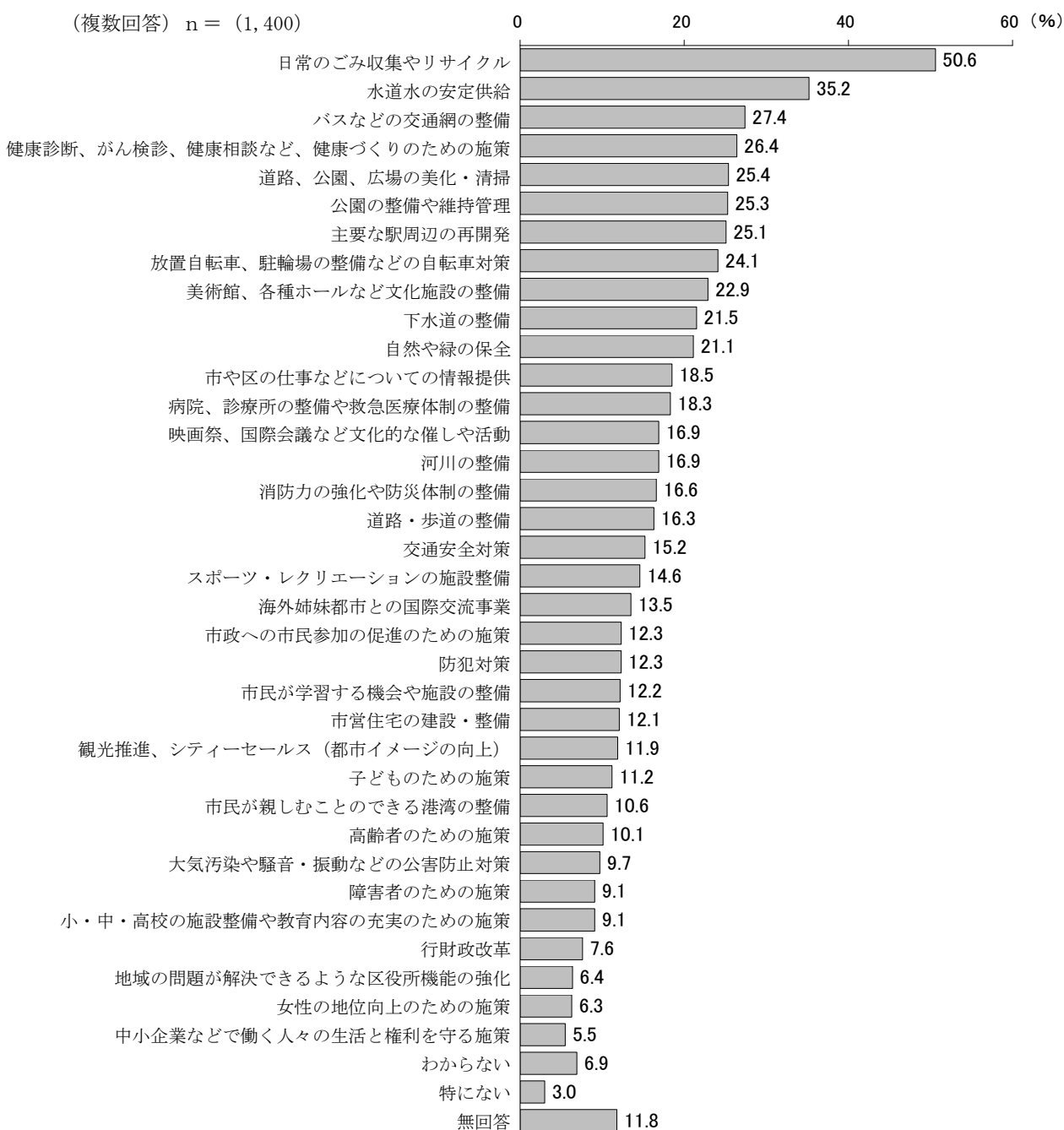
4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

◎「日常のごみ収集やリサイクル」が50.6%

問7 市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと



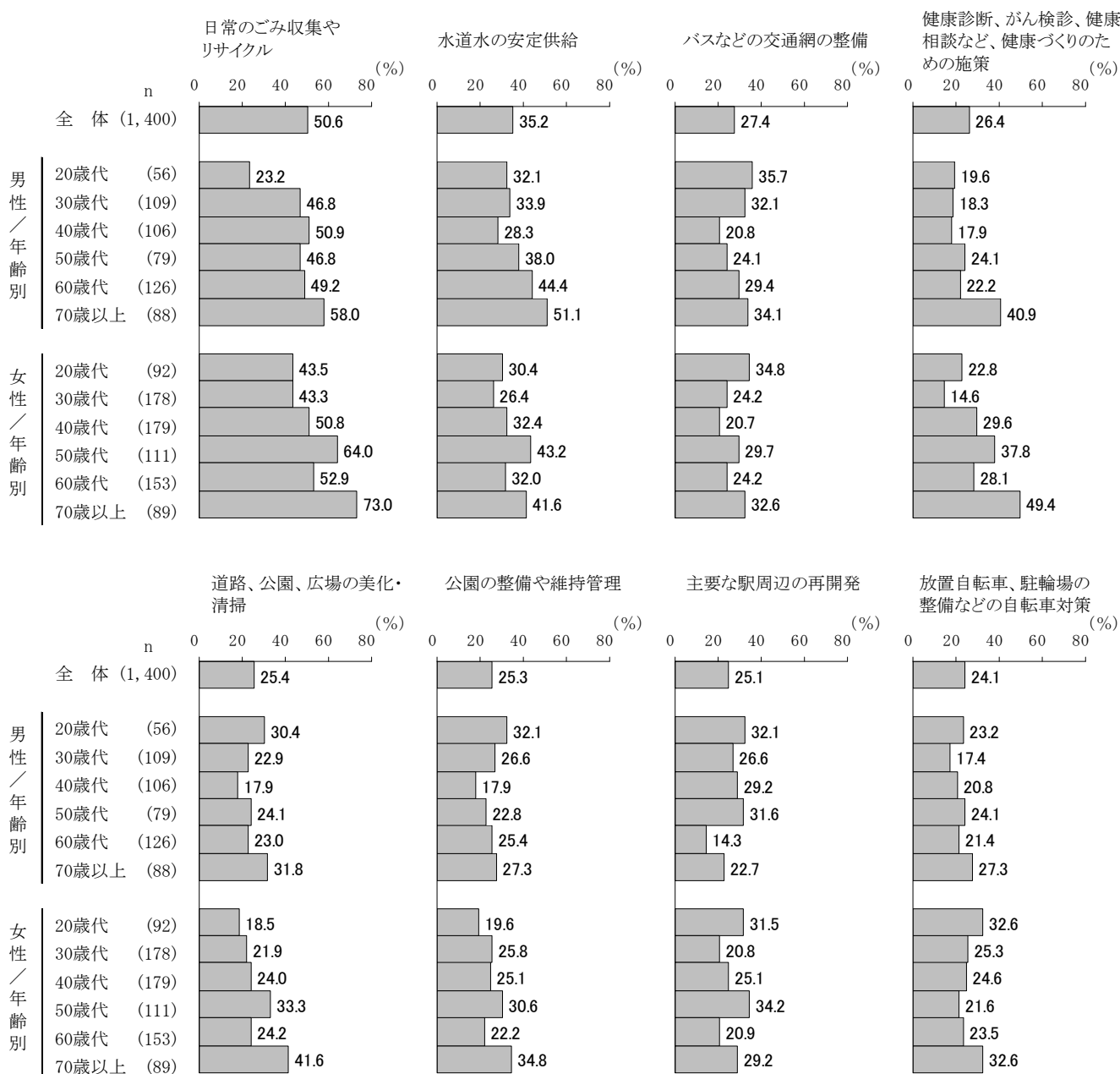
市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」(50.6%)が最も多くなっている。次いで、「水道水の安定供給」(35.2%)、「バスなどの交通網の整備」(27.4%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(26.4%)の順となっている。(図表4-1)

図表4-2 市政の仕事でよくやっていると思うこと(前年比較)

	(%)	
	平成24年度	平成23年度
日常のごみ収集やリサイクル	50.6	51.3
水道水の安定供給	35.2	28.5
バスなどの交通網の整備	27.4	25.1
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	26.4	25.1
道路、公園、広場の美化・清掃	25.4	24.3
公園の整備や維持管理	25.3	22.7
主要な駅周辺の再開発	25.1	23.9
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	24.1	22.6
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	22.9	22.3
下水道の整備	21.5	20.3
自然や緑の保全	21.1	18.9
市や区の仕事などについての情報提供	18.5	17.5
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	18.3	14.3
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	16.9	15.7
河川の整備	16.9	15.1
消防力の強化や防災体制の整備	16.6	15.9
道路・歩道の整備	16.3	14.6
交通安全対策	15.2	13.4
スポーツ・レクリエーションの施設整備	14.6	13.1
海外姉妹都市との国際交流事業	13.5	12.1
市政への市民参加の促進のための施策	12.3	11.8
防犯対策	12.3	12.9
市民が学習する機会や施設の整備	12.2	10.2
市営住宅の建設・整備	12.1	10.7
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	11.9	11.6
子どものための施策	11.2	10.7
市民が親しむことのできる港湾の整備	10.6	9.5
高齢者のための施策	10.1	9.6
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	9.7	9.5
障害者のための施策	9.1	8.7
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	9.1	9.2
行財政改革	7.6	7.4
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	6.4	7.0
女性の地位向上のための施策	6.3	6.7
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	5.5	5.4
わからない	6.9	7.7
特にない	3.0	2.6
無回答	11.8	12.3

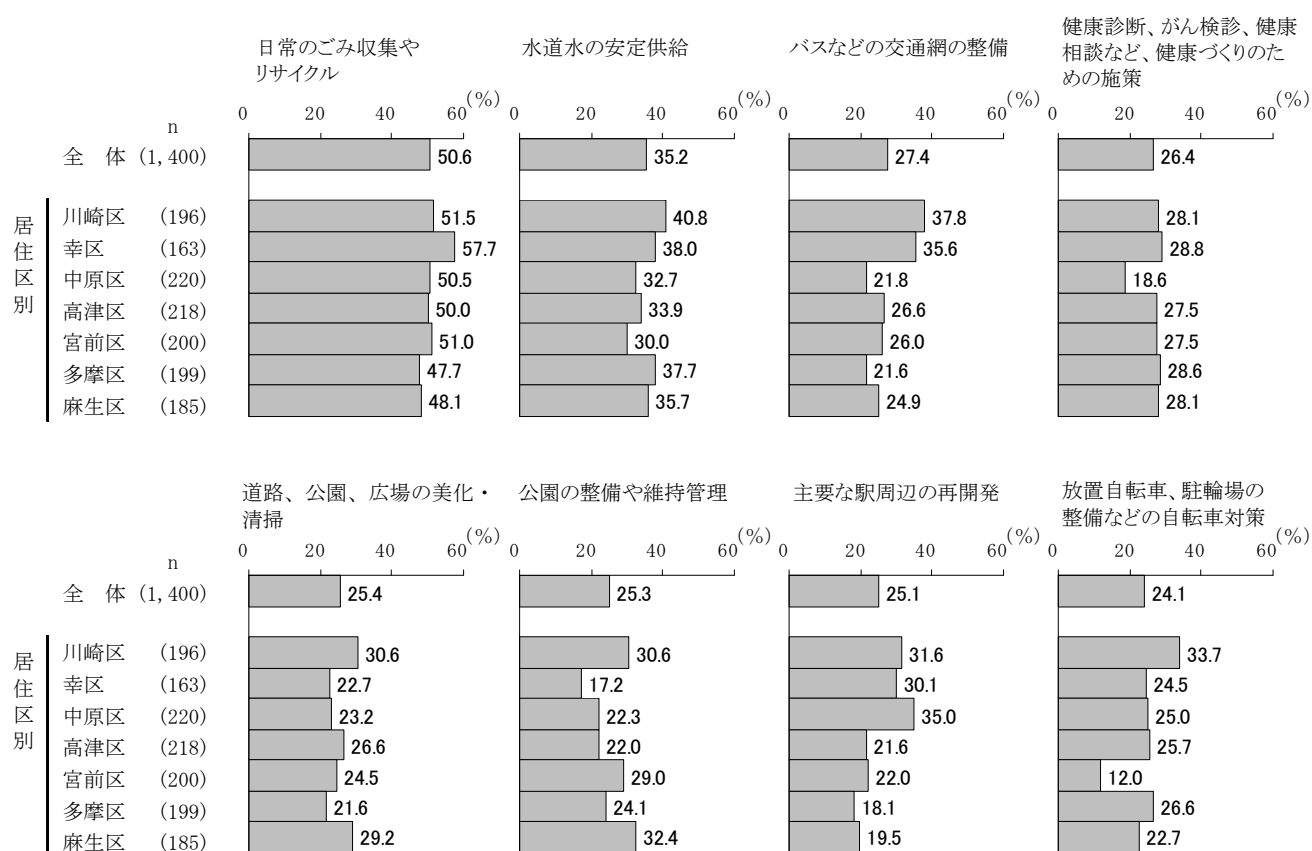
平成23年度と比較すると、「水道水の安定供給」(35.2%)が6.7ポイント、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(18.3%)が4.0ポイント、「公園の整備や維持管理」(25.3%)が2.6ポイント上回っている。一方、「日常のごみ収集やリサイクル」(50.6%)が0.7ポイント、「防犯対策」(12.3%)および「地域の問題が解決できるような区役所機能の強化」(6.4%)がそれぞれ0.6ポイント下回っている。(図表4-2)

図表4-3 市政の仕事でよくやっていると思うこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。「水道水の安定供給」は、男性では70歳以上(51.1%)、女性では50歳代(43.2%)が最も多くなっている。「バスなどの交通網の整備」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」および「道路、公園、広場の美化・清掃」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。(図表4-3)

図表4-4 市政の仕事でよくやっていると思うこと（居住区別、上位8項目）



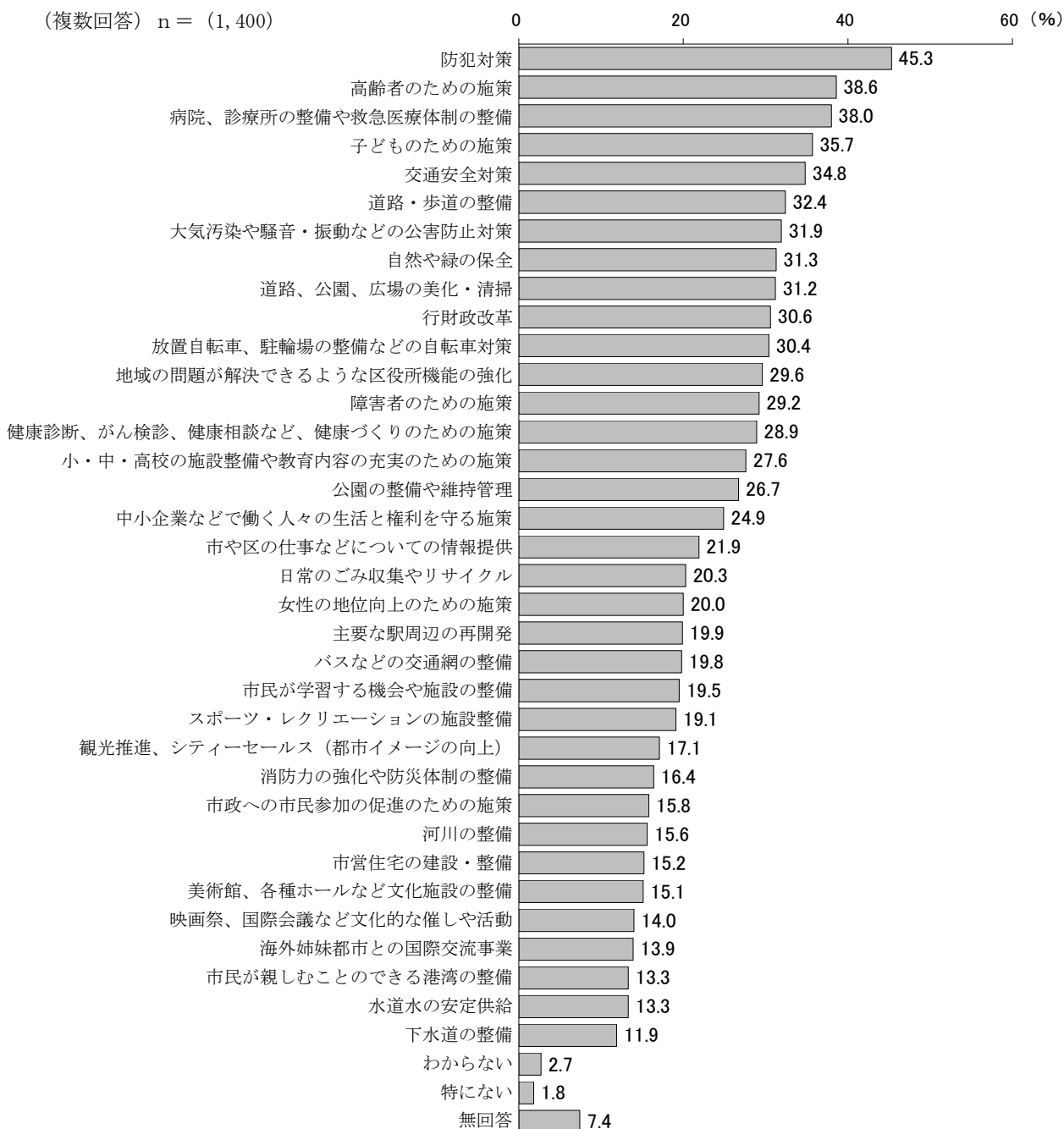
居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、幸区（57.7%）が5割台後半で最も多くなっている。「水道水の安定供給」は、川崎区（40.8%）が4割台で最も多くなっている。「バスなどの交通網の整備」は、川崎区（37.8%）・幸区（35.6%）が多くなっている。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は、中原区（18.6%）が他の居住区に比べ少なくなっている。（図表4-4）

4-2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎「防犯対策」が45.3%

問8 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表4-5 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと



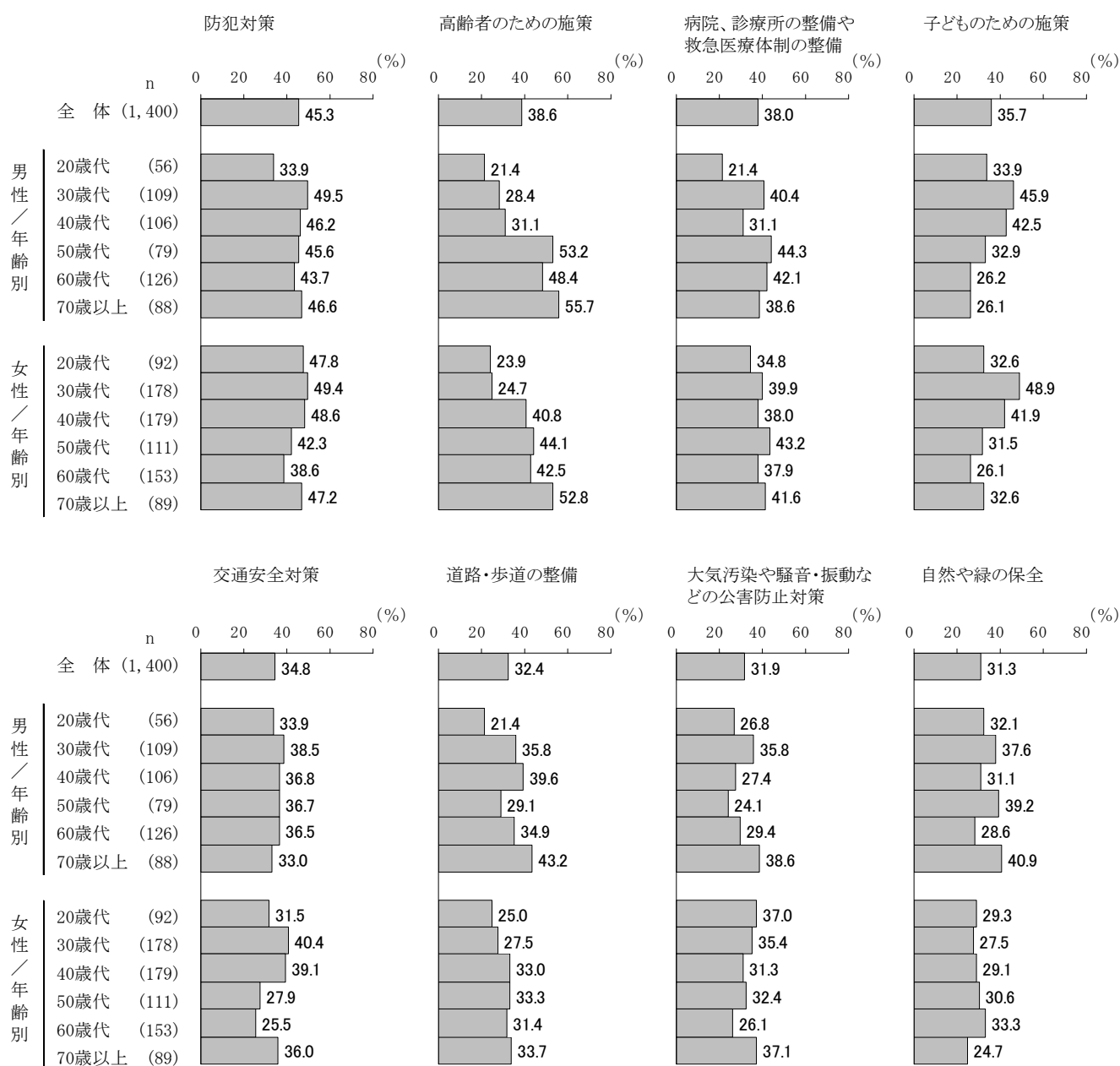
市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「防犯対策」(45.3%)が最も多くなっている。次いで、「高齢者のための施策」(38.6%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(38.0%)、「子どものための施策」(35.7%)、「交通安全対策」(34.8%)、「道路・歩道の整備」(32.4%)の順となっている。(図表4-5)

図表4-6 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいと思うこと（前年比較）

	平成24年度	平成23年度
		(%)
防犯対策	45.3	43.9
高齢者のための施策	38.6	38.5
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	38.0	42.1
子どものための施策	35.7	35.4
交通安全対策	34.8	37.2
道路・歩道の整備	32.4	34.3
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	31.9	33.3
自然や緑の保全	31.3	33.1
道路、公園、広場の美化・清掃	31.2	32.7
行財政改革	30.6	30.5
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	30.4	36.0
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	29.6	31.3
障害者のための施策	29.2	26.9
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	28.9	29.8
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	27.6	25.9
公園の整備や維持管理	26.7	27.7
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	24.9	22.4
市や区の仕事などについての情報提供	21.9	19.8
日常のごみ収集やリサイクル	20.3	18.3
女性の地位向上のための施策	20.0	17.1
主要な駅周辺の再開発	19.9	21.6
バスなどの交通網の整備	19.8	21.4
市民が学習する機会や施設の整備	19.5	18.5
スポーツ・レクリエーションの施設整備	19.1	21.5
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	17.1	18.1
消防力の強化や防災体制の整備	16.4	16.0
市政への市民参加の促進のための施策	15.8	15.5
河川の整備	15.6	17.3
市営住宅の建設・整備	15.2	16.9
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	15.1	14.5
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	14.0	14.0
海外姉妹都市との国際交流事業	13.9	9.9
市民が親しむことのできる港湾の整備	13.3	14.0
水道水の安定供給	13.3	16.3
下水道の整備	11.9	12.5
わからない	2.7	2.1
特にない	1.8	1.3
無回答	7.4	6.4

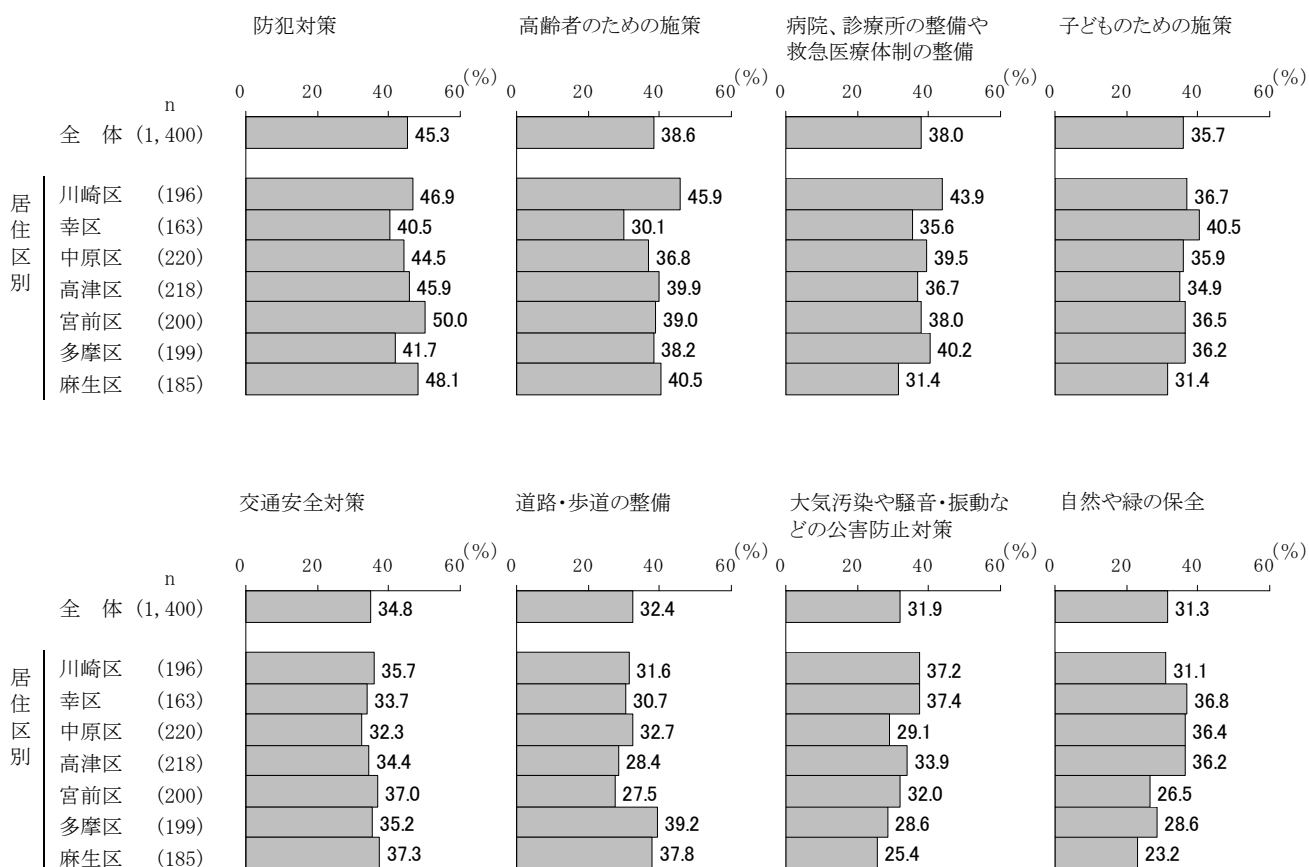
平成23年度と比較すると、「海外姉妹都市との国際交流事業」(13.9%)が4.0ポイント、「女性の地位向上のための施策」(20.0%)が2.9ポイント、「中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策」(24.9%)が2.5ポイント上回っている。一方、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(30.4%)が5.6ポイント、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(38.0%)が4.1ポイント、「水道水の安定供給」(13.3%)が3.0ポイント下回っている。(図表4-6)

図表4-7 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「防犯対策」は、男女ともに30歳代が最も多くなっている。「高齢者のための施策」は、男性では50歳代~70歳以上で4割台後半から5割台と多くなっており、女性では70歳以上(52.8%)が5割台で最も多くなっている。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、男女ともに50歳代が最も多くなっている。「子どものための施策」は、男女ともに30歳代が最も多くなっている。(図表4-7)

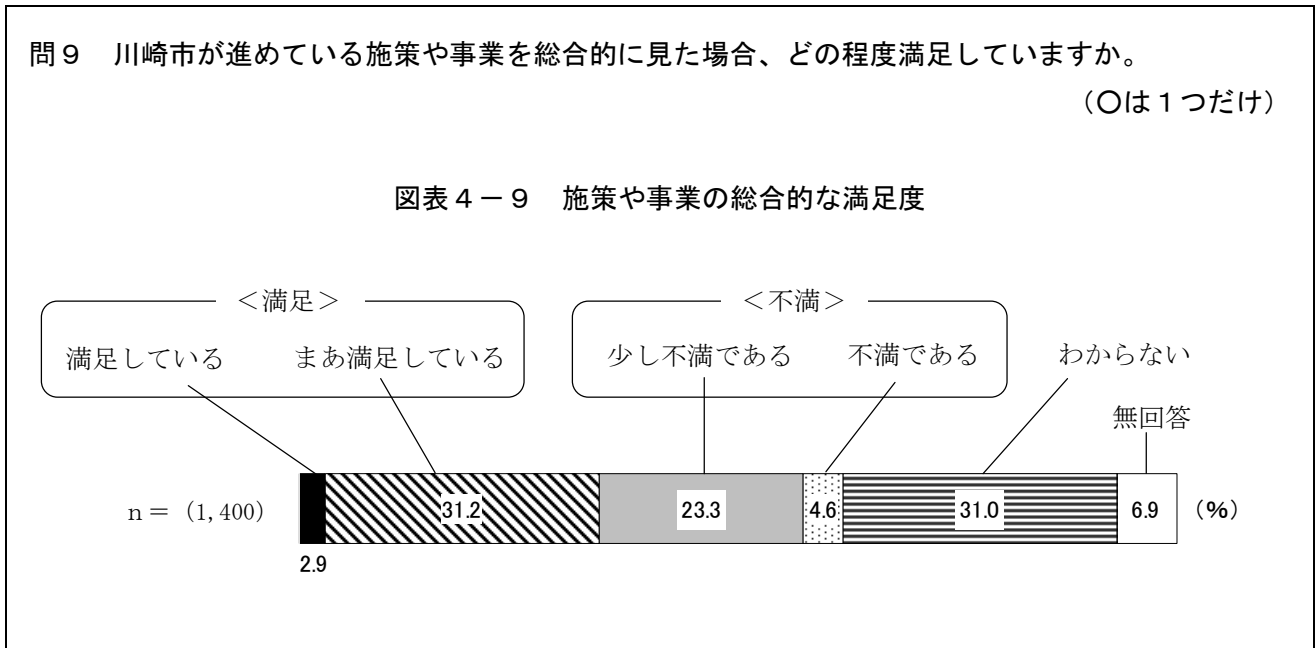
図表4-8 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「防犯対策」は、宮前区（50.0%）が5割で最も多く、次いで麻生区（48.1%）が多くなっている。「高齢者のための施策」は、川崎区（45.9%）が4割台半ばで最も多く、次いで麻生区（40.5%）が多くなっている。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、川崎区（43.9%）が最も多く、次いで多摩区（40.2%）が多くなっている。「子どものための施策」は、幸区（40.5%）が4割を超え最も多くなっている。（図表4-8）

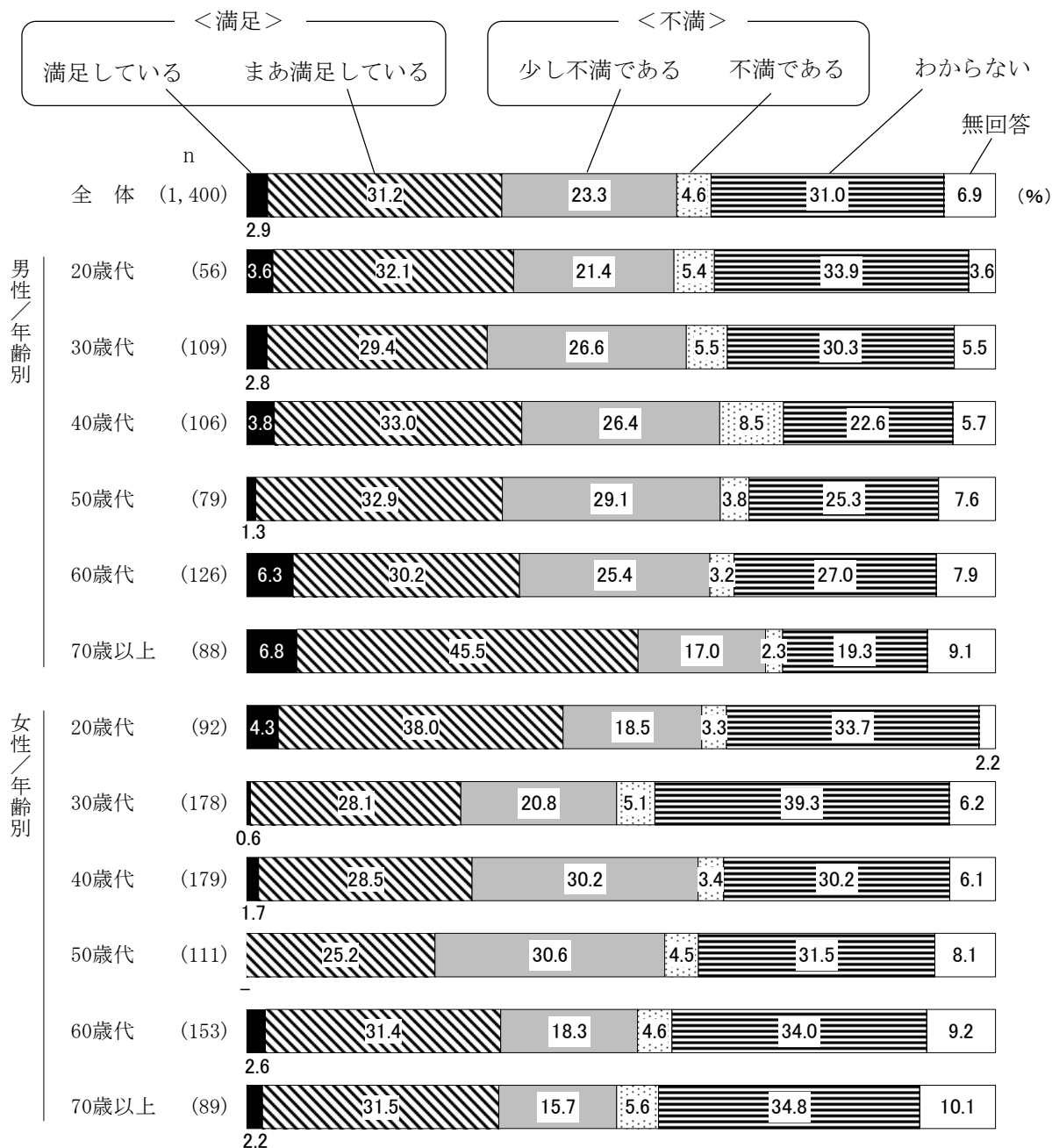
4-3 施策や事業の総合的な満足度

◎<満足>が34.1%



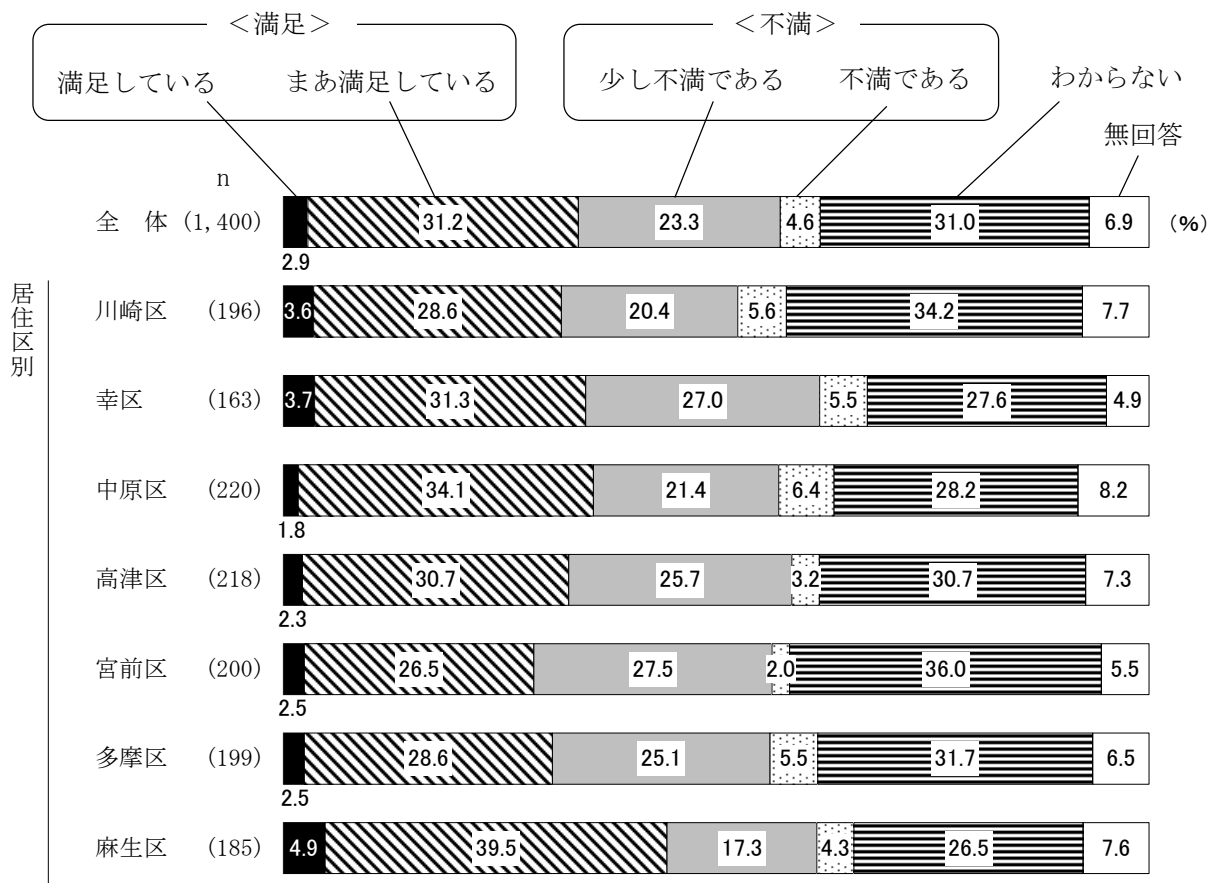
施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」(2.9%)と「まあ満足している」(31.2%)をあわせた<満足>は、34.1%となっている。一方、「少し不満である」(23.3%)と「不満である」(4.6%)をあわせた<不満>は、27.9%となっており、<満足>が<不満>を6.2ポイント上回っている。(図表4-9)

図表4-10 施策や事業の総合的な満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、＜満足＞は、男性では70歳以上(52.3%)が5割を超え最も多くなっており、20～60歳代は3割台となっている。女性では、20歳代(42.3%)が4割を超え最も多く、他の年代は2割台後半から3割台半ばとなっている。＜不満＞は、男性では30～50歳代、女性では40～50歳代が3割を超え多くなっている。(図表4-10)

図表4-11 施策や事業の総合的な満足度（居住区別）



居住区別では、<満足>は、麻生区（44.4%）が4割を超え最も多くなっている。次いで、中原区（35.9%）、幸区（35.0%）の順となっている。一方、<不満>は、幸区（32.5%）、多摩区（30.6%）が3割を超え多くなっている。（図表4-11）